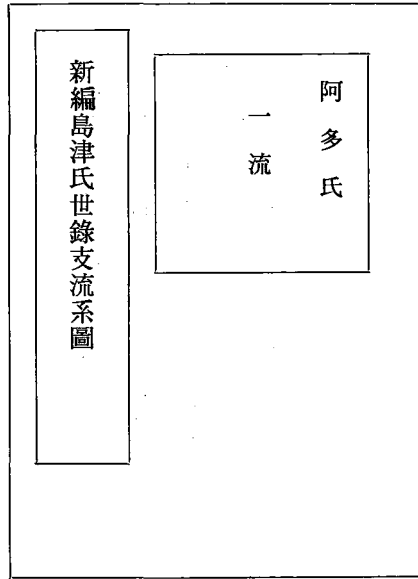


(表紙)



阿多氏系圖

△忠繼

五郎 常陸守

○二代 太守大隅守忠時之七男也、

宗長

號給黎、彦三郎 左京亮 右衛門尉

忠繼

三郎兵衛尉

忠光

號町田、五郎太郎

俊忠

侍從房

久兼

號伊集院、弥五郎

光俊

經俊

道俊

實氏

助久

清久

忠良

法名道傳、

成久

俊久

直久

土佐守

高久

號石谷、左京進 出

○於覺島小野戰死、

羽守

○於伊集院妙圓寺門被誅、

法名善仲、

胤久

五郎左衛門尉 周防介

△久清

號阿多、五郎 飛彈守

『正文在志布志之士阿多飛彈忠縣』

○大隅國大禰寢院郡本永吉内田注文別稱有之事、為給分

所相計也、任先例、可致沙汰之狀如件、

永德二年七月十日 (元久) 孝久 (花押)

町田五郎殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二四二七号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之士阿多飛彈忠縣』

○讓与 薩摩國阿多郡多布施内五大院河縁 五反

右、件院田者、久光為重代相傳之所領之間、限テ

一期仁、所讓与婦ニテ候者也、一期ノ後者、可被

讓孫仁テ候米壽仁也、但於社家年貢等仁、任本證

文之旨、無懈怠面ト仁令勤仕、無他妨可知行也、

仍為後日讓狀如件、

至德二年乙丑六月一日

嶋津恒吉 藤原久光 (花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二四四一号文書ト同文ナリ)

444

『正文在志布志之士阿多飛彈忠縣』

○大隅國大禰寢内本給分事、不可有相違、仍可令領

知之狀如件、

應永七年三月十七日 (元久) 陸奥守 (花押)

町田飛彈守殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二六五一号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之土阿多飛彈忠縣』

○薩摩國阿多郡之事、為祈所宛行申處也、仍任先例、

可有知行之狀如件、

應永十八年八月廿二日

(伊集院頼久花押ニ似タリ)
了玄(花押)

町田飛彈殿

(本文書ハ、「旧記雜錄前編」二八二三号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之土阿多飛彈忠縣』

○薩摩國鹿兒嶋郡内中村・郡本、為祈所宛行處也、

然者早任先例、知行不可有相違之狀如件、

應永廿四年二月六日 忠國(花押)

町田飛彈殿

(本文書ハ、「旧記雜錄前編」二九五三号文書ト同文ナリ)

孫四郎

久親

伊賀守

則久

左京亮

忠好

助三郎 土佐守 ○法名道因、

△忠清

初家久 龜徳丸 飛彈守

『正文在志布志之土阿多飛彈忠縣』

○河野邊内田野上十八丁并高橋三十六丁、此外之事者、

伊集院現形候時、關所次第立替七十丁、為祈所、

可相計狀如件、

永享二年卯月廿日

(忠國)
(花押)

阿多殿

(本文書ハ、「旧記雜錄前編」二二一〇八号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之士阿多飛彈忠縣』

○薩摩國伊作庄之内大野事、所宛行也、早任先例、

可被領知狀如件、

永享二年六月卅日

(忠國)
(花押)

阿多殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一一〇九号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之士阿多飛彈忠縣』

○薩摩之國河邊之内泊之津事、依忠節當行所也、早

任先例、可為領知之狀如件、

永享二年十一月三日

(忠國)
(花押)

阿多殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一一二六号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之士阿多飛彈忠縣』

○薩摩國伊作院内和田・大野、多布施内高橋、河邊

内田邊田・田上・野間・今田・泊津之事、為祈所、

當行所也、任先例、可令領知狀如件、

永享二年十二月七日

(用久)
(好久)
(花押)

阿多殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」一一二七号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之士阿多飛彈忠縣』

○契狀

一右之意趣者、天下てんへん候いふ共、相替申まし

き事、

一御大事之時者、身之大綱と存、御用可立申事、

一如此申談候上者、若わんさん、くわうかい出来候

する時者、以面可申承事、若此条と偽申候者、

日本國中大小神祇別而者 伊勢天照大神 熊野三所

こんけん 八幡大ほさつ 諏方上下大明神 天満天

神御罰可罷蒙候、

永享二年十二月七日

(用久)
(好久)
(花押)

阿多殿

〔本文書ハ「旧記雜録前編」一〇一三〇号文書ト同文ナリ〕

『正文在志布志之土阿多飛彈忠縣』

○鳴津御庄薩摩方河邊郡内今田八町事、為祈所、所宛行也、早任先例、可領掌之狀如件、

永享九年五月廿八日

(忠國)
陸奥守 (花押)

阿多龜徳殿

〔本文書ハ「旧記雜録前編」一〇一七号文書ト同文ナリ〕

『正文在志布志之土阿多飛彈忠縣』

○南蛮船可着岸當津博多候處、依海上怖畏、其方ニ

逗留之由、注進到来候、不可然候、仍先京都へ申候了、如何ニも被加御助成、早々此面ニ被送越候

者、日出候、就其態遣迎船候、隨而、津々浦々警

固事堅申付候、可有御心得候、恐々謹言、

八月五日

(淡川滿頼)
道鎮 (花押)

町田飛驒守殿

〔本文書ハ「旧記雜録附録」二二六号・「旧記雜録附録」二二九五文書ト同文ナリ〕

『正文在志布志之土阿多飛彈忠縣』

○就南蛮船事、進芥河愛阿候、委細申候哉、如何ニも早々送給候者、日出候、具鳴津方へ申候了、御

無沙汰候者、不可然候、恐々謹言、

十月廿三日

(淡川)
義俊 (花押)

町田飛驒守殿

〔本文書ハ「旧記雜録附録」二二九六号文書ト同文ナリ〕

『正文在志布志之土阿多飛彈忠縣』

○就南蛮船事、先日進飛脚候之處、委細御返事本望候、然而此船于今逗留、無心元候時分、自京都兩

度如被仰下候者、早々此面へ召寄、可送進兵庫津

之由候之間、重進使者、不可有御無沙汰候、上意

可有御不審候敷之間、先日御返事共令京進候き、

委細之旨愛阿可申候、將又當職事、義俊蒙仰之間

進狀候哉、恐々謹言、

十月廿三日

(淡川滿穂)
道鎮 (花押)

町田飛驒守殿

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」一八九七号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之上阿多飛彈忠縣』

○就南蛮船事、進愛阿候處、御奔走之由申候、目出度候、但于今延引不可然候、其段嶋津方便ニ申候了、如何ニも早々此面へ被廻候者可然候、尙遲々候者、上意可無勿躰候、恐々謹言、

二月十七日

(淡川)
義俊 (花押)

町田飛驒守殿

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」一八九八号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之上阿多飛彈忠縣』

○就南蛮船事、愛阿越國之處、御奔走目出候、隨而自嶋津殿使者、尙委細申候、如何ニも此船早々被

遣廻候者、可然候、事々連々可申候、恐々謹言、

二月廿三日

宗壽 (花押)

町田飛彈守殿

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」一八九九号文書ト同文ナリ)

『正文在志布志之上阿多飛彈忠縣』

○嶋津方使者歸國之時、委細申之處、南蛮船去月十五日可出船之由、自那弗答狀到来候、目出候、但又延引候歟、其後々右無音候、無心『無敵本ノマ、』元候、度々委細申之候上者、雖不可有御等閑候、尙々御奔走可然候間、熊進飛脚候、具嶋津方へ申候、可有御心得候、恐々謹言、

三月廿二日

(淡川)
義俊 (花押)

町田飛驒守殿

(本文書ハ「旧記雜錄附録二」二二〇〇号文書ト同文ナリ)

『案文在志布志之士阿多飛彈忠縣』

○先日石塚大和入道下向候時、預御狀候条、於今恐
悦至候、隨而就南蛮船事、自上方御書拝領、面目
至、畏入存候、兼又彼船出津致用意候刻、匠作大(島津久豊)
勢にて、去月廿三日、此境寄來候あひた、馳向防戰
仕候處、仍敵方數百艘以兵船、彼船可取之由、相
工候事現形候間、大驚候て、綱祺切捨、俄退出候
よて懸置候間、其外當津者共、不殘一人も退散候
間、是非不及、無面目次第候、此等之趣彼使者委
細令申候間、④完〔令〕披露可被申候哉、此趣任上意
候様ニ御方便、於身悦喜此事情、恐々謹言、

卯月七日

家久御判

芥河殿

(本文書ハ「旧記雜錄附録」二二五号・「旧記雜錄附録」二二〇一号文
書ト同文ナリ)

久満

佐渡守 ○子孫記左、

經久

新次郎 攝津介

○連続兄忠清跡、

但馬守

△經久

新次郎 攝津介 飛彈守

○兄忠清依無世子為猶子、實久清三男也、

△公久

新次郎 刑部少輔 播磨守

長門守

○子孫記左、

女子

女子

△忠秋

新次郎 右衛門尉

忠房

源次郎 式部少輔

△忠金

△忠雄

源次郎 式部少輔 飛彈守

俊久

初忠俊 源次 孫右衛門 上總介

久守

源四郎 右衛門尉 入道名柯則、

○法名法山柯則、

筑後守

○子孫隅州栗野士也、

女子

中別府右京亮妻、

源助

筑後

○法名夏雲涼仙居士、

忠壽

源次 貞右衛門

○延寶四年丙辰四月十八日、依罪科被誅、

忠有

源次 曾右衛門

○為隅州栗野士古川傳右衛門之養子、

女子

隅州踊士平山仲兵衛忠政妻、

久任

字右衛門

○母栗野士前田新兵衛重宅女也、

○延寶四年丙辰四月十八日、依罪科與父忠壽俱被誅、

女子

栗野士姬木次郎左衛門兼次妻、

○母同所士有村清右衛門春實女也、

俊惟

作左衛門

○寛文十一年辛亥十二月二十六日誕生、母日州

馬関田士菌田對馬女也、

○實栗野士有村清右衛門春實之男而為久任之養子、時久任因罪凡誅、故倚頼于叔父源助為弟、

喜與助

早世、

○母同前、

俊倚

源左衛門 源助

○寛文元年辛丑二月朔日誕生、母同前

○依父兄之罪科雖配流大島、其後蒙 恩許相統家矣、

彌左衛門

○寛文四年甲辰十二月朔日誕生、母同前、

○為栗野士中村佐五右衛門之養子、

女子

泉州堺住鱒屋早淵七左衛門妻、

俊惟

作左衛門

○實宇右衛門久任之養子也、久任伏誅之後、為叔父源助之弟、

女子

○母栗野士有村十左衛門春昌女也、

俊侶

山之丞

○元禄十四年辛巳五月十日誕生、母同前、

俊禮

孫四郎

○寶永三年丙戌十月二十日誕生、母同前、

俊登

岡右衛門

○正徳元年辛卯九月十三日誕生、母同前、

女子

隅州吉松土山口伴左衛門妻、

○母栗野土原田分右衛門経均女也、

女子

栗野土圖師覚左衛門妻、

○母同前、

俊量

孫八

○元禄八年乙亥九月十一日誕生、母同前、

俊敦

源次郎

○元禄十六年癸未十月二日誕生、母同前、

忠榮

源四郎 才兵衛尉

○天正元年癸酉誕生、

○慶長十九年甲寅八月二十日、於武州江戸死、法

名秋山成葉居士、

忠辰

内蔵丞 ○子孫隅州清水土也、

久章

孫右衛門

○元和三年丁巳三月十一日誕生、

○元禄十六年癸未三月二十四日死、法名華岳久

雪居士、

忠春

源藤 源兵衛

○寛永四年丁卯十一月十四日誕生、

○為日州松山士阿多大膳亮久宣之養子、

久次

源次郎

久矩

龜千代 新右衛門

○慶安四年辛卯八月五日誕生、母隅州清水士濱

田右京良稜女也、

○寶永二年乙酉十月二十日死、法名直翁宗指居

士、

女子

隅州國分士東郷次郎兵衛重次妻、

○母同所士海老原茂兵衛為貞女也、

女子

清水士谷口喜兵衛義這妻、

○母同前

俊盈

源太郎 孫右衛門

○元禄七年甲戌三月十二日誕生、母同前、

久繁

源右衛門尉

○慶長十六年辛亥誕生、母園田氏女、

○延寶七年己未二月二十九日死、年六十九、法名

英岳豪俊居士、

女子

有川市兵衛妻、

女子

鎌田與兵衛妻、

○母丹生助右衛門女也、

久包

初久慶 源次 源五左衛門 佐仲 太仲

○因罪科被凡誅矣、

久明

源次 源五左衛門

○母内田意益女也、

○先父死去矣、

久有

源十郎 深右衛門

○母同前、

○依父罪科被配流矣、

女子

伊集院弥七妻、

△忠堅

源二郎 式部少輔 飛彈守 ○法名紹榮、

△忠縣

源藏 攝津介 飛彈守

○慶安五年壬辰六月二十六日死、法名松垂常雲禪定門、

久宣

孫三 大膳亮 ○法名雪水宗龍、

○日州松山士也、

重智

助七 新右衛門

○赤瀨川為猶子連続於夫家矣、

俊春

初忠春 源藤 源兵衛

○寛永四年丁卯十一月十四日誕生、

○久宣依無男子為養子、實隅州清水土阿多内藏之
丞忠辰之二男也、

俊淨

初忠淨 源三郎 源左衛門

○寛文九年己酉三月二十三日誕生、母島津筑後久龍
家臣清水苔助女也、

○依病不家督、

俊番

三左衛門

○貞享元年甲子十二月二日誕生、母日州松山土釘
田佐左衛門盛定女也、

○俊春之一子發病而不統家、故為俊春之養子、實
者松山土大町與左衛門公廣之二男也、

女子

日州大崎土瀬戸休七貞宴妻、

俊繁

太郎右衛門

○寶永六年己丑六月十八日誕生、母松山土永山權左
衛門盛尙女也、

俊命

源之進

○正徳二年壬辰二月七日誕生、母同前、

忠救

源二郎 半之丞

○母志布志土丸尾大炊左衛門重澄女也、
○早世、法名伴月宗閑、

△忠祐

源左衛門

○寛永二年乙丑誕生、母同前、
○兄忠救早世、故家督、
○寛文十二年壬子閏六月五日死、年四十八、法名加

月涼殿、

忠易

源五郎

○母日州大崎土岩下與右衛門妹也、

○忠易初雖為忠縣之養子、其後忠救・忠祐二子出

生、以故忠易為忠祐弟、實志布志士赤瀨川新右

衛門之嫡子也、

○日州志布志士也、

○寬永十六年庚辰十月二十七日死、法名通屋常圓、

女子

隅州恒吉土岩下源左衛門重好妻

○母志布志士若松志摩之助忠德女也、

女子

恒吉土宮地木工右衛門武孝妻、 ○母同前、

俊祐

新介 源右衛門

○明曆三年丁酉十月二十八日誕生、母志布志士野邊傳左衛門盛貞女也、

○忠易依無男子為養子、實者志布志士赤瀨川分右衛門重利之二男也、

俊全

初忠寅 源左衛門 政右衛門

○貞享二年乙丑十二月九日誕生、母日州松山士中原

伊之助重澄女也、

俊就

新右衛門

○元祿六年癸酉十一月二十八日誕生、母同前、

女子

○母同前、

俊延

初忠辰 松千代 源五左衛門

○承應四年乙未正月五日誕生、母志布志士岩崎八郎左衛門重延女也、

○因病不家督、

△俊益

初忠實 津右衛門 ○志布志士也、

○寛文二年壬寅十一月十七日誕生、母同前、

○兄俊延發病、故俊益雖勤番代、其後辭去而別樹

家、

女子

志布志士有馬次右衛門純盛妻、

○母同前、

俊刑

初久休 源次郎 新五左衛門

○元禄元年戊辰十月二日誕生、志布志士田邊源左衛

門兼親女也、

女子

○母同前、

女子

○母同前、

△俊綿

初久浮 源五郎 飛彈右衛門 新之丞

○貞享二年乙丑五月晦日誕生、母妾、

○父俊延依為病人雖不家督、至俊綿直相統祖父忠祐

之跡、

○正徳三年夏、當家實名避久忠字以俊字宜為實名字、

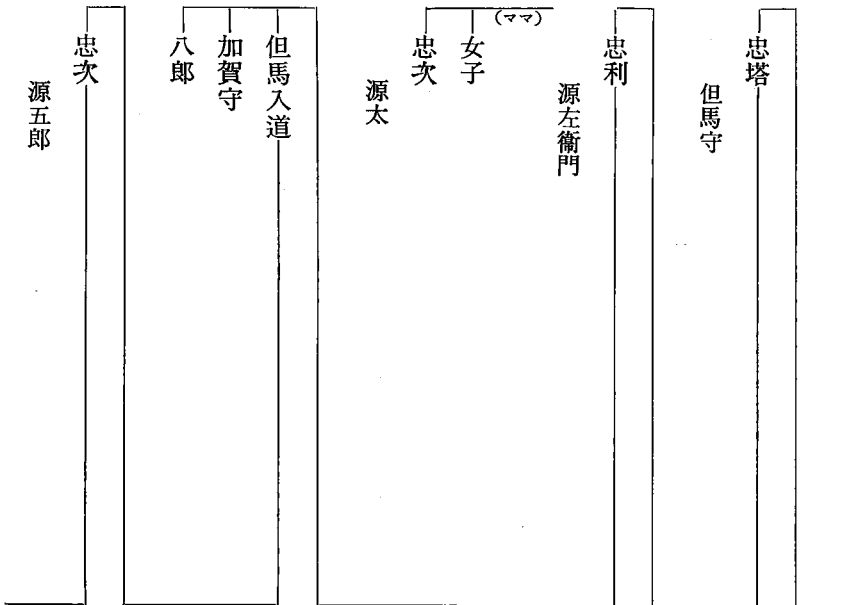
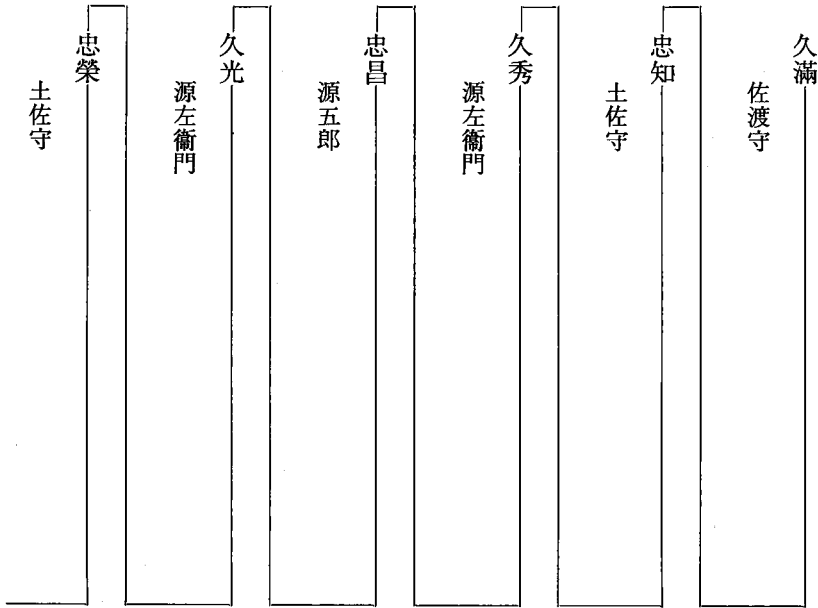
家嫡郷九郎久儔受 命傳之、故改俊字氏族皆然矣、

女子

○母同前、

女子

○母志布志士東監助兼由女也、



<p>女子 早世、</p> <p>男子</p>	<p>忠俊 源左衛門 ○於高麗戰死、</p> <p>女子</p>	<p>忠繼 源左衛門 ○於三山打死、享年二十六、</p> <p>忠明 掃部助 ○子孫記左、</p> <p>女子</p>
-----------------------------	--	---

<p>女子</p>	<p>忠充 甚充 才左衛門 仲右衛門 ○元和四年戊午十一月二十九日誕生、母町田新左衛門久直女、</p> <p>○忠利依無實子為養子、實菱刈休兵衛隆豐之二男也、</p> <p>○寛文十二年壬子七月十四日死、法名悅翁良喜居士、</p>	<p>忠利妻、</p> <p>忠利 源左衛門 ○母木脇刑部左衛門祐昌女、</p> <p>○忠俊於高麗戰死、且男子早世而無可継家者、故以忠俊之女子嫁忠利為後嗣、實町田新左衛門久直之三男也、</p> <p>○慶安三年庚寅三月二十九日死、法名月湖紹心居士、</p>
-----------	---	---

町田弥兵衛久隆妻、

女子

大寺五右衛門妻、

忠行

又千代 仲兵衛 内藏之丞

○明曆三年丁酉三月五日誕生、母丸尾隼人女、

○元禄四年辛未九月十八日死、法名實山宗真居士、

女子

鎌田勘助政房妻、

○母諸留安右衛門女、

俊名

初忠知 甚助 仲右衛門

○寛文六年丙午十二月十日誕生、母同前、

○兄忠行無男子死、故忠知家督、

○正徳三年夏、此家之實名以俊字可為實名字、嫡家

新之丞俊綿受宗家令傳之、故改俊字、

○此家勤小番矣、

俊峯

久前 又龜 源之丞

○元禄九年丙子閏八月七日誕生、母諸留安右衛門安

廣女、

忠長

源五郎 安右衛門

○元禄十二年己卯十月八日誕生、母同前、

○為諸留助右衛門之養子、

女子

○母淵邊朔玄女、

長門守

源七 孫右衛門

忠明

源七 刑部少輔

忠眞

源六 源左衛門

忠春

源七 周防助 入道名洞雲、

○天文十五年丙午正月十六日誕生、

○寛永七年庚午三月五日死、年八十五、法名洞雲南

浦庵主、

忠次

源太 早世、

忠増

源六 勝右衛門

○天正元年癸酉誕生、

○慶長十九年甲寅八月十八日死、年四十二、法名蘭

室禪桂居士、

忠次

傳五

○天正三年乙亥誕生、

○慶長八年癸卯八月二日死、法名松屋玄長禪定門、

女子

北條主水佐時盛妻、

女子

忠朗妻、

○母日高吉右衛門重存入道淨珍女、

忠朗

初忠愛 源七 勘解由 六郎右衛門

○慶長十三年戊申二月二日誕生、母留主左衛門佐景

親女、

○忠増有一女無男子、故忠朗嫁一女以為養子、實町

田駿河守久門之二男也、

○元和七年之冬、列犬追物射士、

○轉任納戶奉行・町奉行等之職、

○轉補隅州櫻島・同曾木・同百引等之地頭職、

○勤 綱貴公之御守役、

○貞享四年丁卯八月二十五日死、年八十、法名瑞巖

雲祥居士、

女子

○母忠増女、

○延寶六年戊午十一月五日死、法名雲山性海大姉、

忠寄

初忠成 源七 六兵衛 六太夫 入道名柳陰、

○寛永十七年庚辰三月十八日誕生、母同前、

○轉任納戶奉行・兵具奉行物頭・吟味役・江戸留守

居等之職、

○轉補薩州鶴田・日州穆佐等之地頭職、

○寶永五年戊子五月二十一日死、年六十九、法名陽

山柳陰居士、

女子

○母同前、

○初嫁蛟島幸左衛門宗員、離別而為家村彦左衛門重

種之妻、其後奉仕 綱貴公勤年寄役、

忠花

松壽 五郎左衛門

○正保三年丙戌十一月二十八日誕生、母同前、

○延寶三年乙卯八月二十九日死、法名心弓本源居

士、

俊民

初忠兼 彦五郎 源五 六郎兵衛

○寛文十二年壬子九月十五日誕生、母川上彦左衛

門久秀女、

○忠花依無男子為養子、實六太夫忠寄之二男也、

俊

七之助

○寶永二年乙酉正月八日誕生、母妾、

女子

○母同前、

俊宗

初忠共 源七 六郎右衛門

○寛文十年庚戌十月五日誕生、母川上彦左衛門久秀女、

○任江戸留守居役、

○正徳三年之夏、此家之實名可改俊字、嫡家新之丞

俊綿受 令傳之、故改俊字、

○此家初拜謁 太守公至家督等之時奉獻御太刀、且

勤小番、是家例也、

俊民

初忠兼 彦五郎 源五 六郎兵衛

○寛文十二年壬子九月十五日誕生、母同前、

○為阿多五郎左衛門忠花之養子、

忠次

安之丞 六七

○延寶七年己未三月十五日誕生、母同前、

○元禄五年壬申十二月四日死、法名覺峯全直居士、

俊純

初忠充 中忠居 小七 源藏

○天和三年癸亥十月二十五日誕生、母同前、

長五郎

早世、

○貞享三年丙寅三月五日誕生、母同前、

女子

早世、

○母同前、

俊長

初忠香 源七

○元祿十一年戊寅十二月十五日誕生、母平山勘兵衛

武祝女、

萬次郎

早世、

○母同前、

三藏

早世、

○母同前、

女子

○母同前、

俊

源八

○寶永五年戊子正月四日誕生、母同前、

阿多掃部助忠明一流系圖

忠明

掃部助

○阿多佐渡守久滿家十代源五郎忠次二男、

忠

甚左衛門

○法名同松榮賢居士、

忠知

掃部助

○丁 太守黃門家久卿之御代、勤御納戸役、補隅州

栗野之地頭職、

女子

折田菊兵衛妻、

忠

助右衛門

○萬治三年庚子六月十三日死、法名涼園大清居士、

忠

甚左衛門

○雖為忠知之嫡子、其身不正也、故絕父子之義、繇繫為當家之庶流矣、

忠行

甚兵衛

○忠知與甚左衛門父子義絕、以故忠行為忠知之養子相統當家、實小野少兵衛之二男也、

○延寶二年甲寅十一月十五日死、法名乾山元亨居士、

忠

四郎左衛門

○正德三年癸巳九月七日死、

女子

女子

女子

山元利右衛門妻、

○母日州飯野土清藤隼人女、

忠隆

仲左衛門

○母宮之原長助女、

○天和四年甲子四月二十九日死、法名德宗道貴居士、

忠陳

左兵衛 六右衛門

○萬治三年庚子十一月十二日誕生、母同前、

○為兄仲左衛門忠隆之後嗣、

俊陳

初忠陳 左兵衛 六右衛門

○萬治三年庚子十一月十二日誕生、母宮之原長助女、
○兄忠隆之一子掃部忠能、有故為人所害、其事不正也、茲以削除世數、以故俊陳蒙 恩免為忠隆之俊嗣、相統當家、

○此家至初及繼目等之儀奉獻御太刀、且勤小番、是家格也、

不知所自出
阿多若狹守久鎮一流系圖

久鎮

大炊介 若狹守 入道名無栖、

○依 太守貴久公之命、仕島津左衛門尉歲久、自覺

城移居于薩州吉田、嫡男久宗者奉仕 太守公矣、

○於薩州宮之城死、法名無栖宗心居士、

久宗

中務 若狹守

○母伊集院大和守忠倉入道孤舟齋女也、
○於日州三山戰死、年二十五、法名心月久宗居士、

久次

源太

○奉仕 太守義久公、有故於肥之前州平戶切腹矣、

○法名昌山清久居士、

女子

伊地知民部少輔重堅妻、

女子

隅州國分士鎌田刑部左衛門政廣妻、

○母同前、

女子

川上左近將監久朗妻、

○母同前、

忠季

大炊介 若狹守 入道名有安、

○母同前、

○兄久宗戰死、且一子源太亦不幸而死、故連統父久鎮之躅、而仕島津左衛門尉歲久矣、

○寬永十八年辛巳六月十日、於薩州東鄉死、法名昌山好久居士、

忠倍

平右衛門

○母三原七左衛門女、

○當朝鮮征伐之時、島津袈裟菊丸幼年也、故忠倍為軍代、率士卒渡海朝鮮國勞軍務、破番船之時戰死、實慶長三年戊戌十一月十八日也、年二十五、法名融山常圓、

忠德

源七郎 平右衛門

○母同前、

○慶長十六年島津下總常久補薩州伊集院之地頭、此

時忠德為噉役、移居于伊集院、子孫伊集院士也、

○十一月二十日死、法名抱山壽心居士、

忠秀

源次 大炊左衛門 若狹

○母同前、

○寬永十年仕島津彈正久慶、與父忠季俱去大村移東鄉、

○寬永十四年丁丑十二月二十五日、於武州江戶死、法名花岩長榮居士、

女子

忠則妻、

忠則

采女 平右衛門

○母鹿兒島士間世田七左衛門妹、

○忠德依無男子為智養子、實薩州谷山士肥後善左

衛門三男也、

○延寶三年乙卯八月十七日死、法名西山道秋居士、

忠榮

平左衛門 善兵衛

○慶安二年己丑八月二十八日誕生、母忠徳女、

○元禄十一年戊寅八月十七日死、法名覚嚴道本居士、

士、

女子

鹿兒島土妻屋總左衛門篤能妻、

○母同前、

俊英

初忠親 少三郎

○寛文七年丁未八月二日誕生、母同前、

○伊集院之士也、

女子

○母伊集院士海江田甚兵衛女、

久逸

初忠致 善三郎 源助

○寛文十一年辛亥十一月十六日誕生、母北郷作左

衛門久嘉家臣北郷吉左衛門忠盈女、

○寶永元年甲申九月朔日死、法名桂宗全久居士、

女子

薩州市来土岩重守右衛門政盛妻、

○母同前、

俊森

初久明 袈裟千代 平助

○天和二年壬戌十一月十九日誕生、母同前、

○正徳三年夏、當家以俊字可為實名字、嫡家新之

丞俊綿受宗家之令傳之、故改俊字、

俊姓

平兵衛

○寶永五年戊子閏正月十九日誕生、母伊集院土森山權兵衛女、

忠尙

源次 大炊左衛門 若狹 入道名白翁、

○元和二年丙辰誕生、母島津圖書久通家臣肝屬與兵衛女、

○寶永三年丙戌十月四日死、年九十一、法名中正一室居士、

女子

鹿兒島土阿蘇新九郎惟秀妻、

○母同前、

女子

薩州東郷土宇田佐左衛門妻、

○母同前、

俊有

初忠知 彦松 兵大夫 十兵衛

○寛永六年己巳九月十七日誕生、母同前、

○素雖為島津丹波忠興之家臣、後為東郷之士、

女子

隅州國分土田代清左衛門清孝妻、

○母東郷土東郷加兵衛女、

國分土福崎民部左衛門義平妻、○母同前、

俊清

初忠休 龜助 次右衛門

○寛文九年己酉七月二十三日誕生、母東郷土三原

監物女、

○忠知依無男子為養子、實東郷土川添茂兵衛之嫡男也、

俊成

源之進

○正徳元年辛卯十一月十九日誕生、母東郷士相良志摩頼廣女、

忠英

源次 大炊左衛門 大炊 九郎右衛門 入道名

常貫、

○寛永十年癸酉十二月朔日誕生、母日置家臣笠間主

計女、

○寶永七年庚寅閏八月二十五日死、法名一屋常貫居

士、

女子

東郷士相良傳左衛門長治妻、○母同前、

忠利

内記

○母同前、

○萬治二年己亥十一月九日死、年十八、法名月山宗

圓居士、

女子

伊集院士月野吉兵衛重時妻、

○母東郷士相良志摩長秀女、

俊武

初久文 豊千代 源之進 武右衛門 平右衛門

○延寶元年癸丑六月二十日誕生、母同前、

○正徳三年夏、此家以俊字可為實名字、嫡家新之丞

俊綿受宗家之令傳之、故改俊字、

女子

日置家臣神川宅馬義雅妻、

○母同前、

俊盈

初久重 増千代 源之進 平四郎

○元禄八年乙亥八月十日誕生、母島津内記久貫家臣

隅善兵衛清周女、

阿多氏

俊房

初久貞 若右衛門

○元禄十五年壬午十二月二十七日誕生、母同前、

女子

○母同前、

不知所自出
阿多美作守忠豐一流系圖

忠豐

○慶長十七年壬子二月十五日病死、法名孝庵玄忠居

士、

忠尙

源六之丞

○於高麗戰死矣、

忠榮

新助 加賀守

○忠尙於高麗戰死、故為養子、實字佐法輪房祐長之

子也、

○正保二年乙酉十月二日死、法名古山徹心居士、

忠昌

新助 六郎左衛門

○母本田氏女也、

○薩州出水士也、

○寛永十五年戊寅三月十五日死、年二十四、法名松

巖大椿居士、

女子

薩州高尾野土稅所助兵衛妻、

忠眞

新助 加賀右衛門

○母三原舍人女、

○寛文五年乙巳十一月十一日死、法名大安守道居士、

女子

三原治部右衛門妻、

忠英

初忠堯 虎千代 新助 六郎左衛門

○明曆元年乙未誕生、母薩州高尾野士土岐三郎右衛門頼堯女、

○元禄十五年壬午八月二十六日死、法名理山宗蓮居士、

忠成

源六 早世、

○母同前、

女子

島津圖書久方家臣指宿次兵衛妻、

○母出水土新納五右衛門忠清女、

俊庸

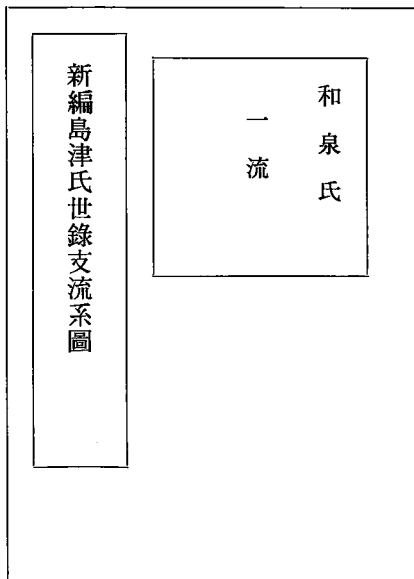
新助

○元禄七年甲戌十一月二十四日誕生、母同前、

○正徳三年夏、此家以俊字可為實名字、嫡家新之丞

俊綿受宗家之令傳之、故改俊字、

〔表紙〕



『元祖』
△忠氏

和泉氏系圖

初實忠 三郎兵衛尉 左兵衛尉 豊後守 下野守

○四代之 太守下野守忠宗公之二男也、
○建武年間、高越後守師泰・齊藤弥四郎左衛門尉利

泰・實忠三輩為鎮西成敗職、在于筑前州博多也、

460 『寫在隈之城衆上村勝吉』

○八幡新田宮雜掌道海申、嶋津三郎兵衛尉實忠 當
宮免田壹町御供米對捍事、

右、如解狀者、當宮常見立用内、勢万勤免田御供米、
南郷地頭實忠、元亨三年以来對捍之條無謂、中間
略之、任實忠承狀、遂結解、可令弁濟矣者、依仰
下知如件、

元德二年十月廿五日

修理亮平朝臣御判
(英時)

(本文書ハ「旧記雜錄前編一」一五六号文書ト同文ナリ)

461 『正文在權執印』

○薩摩國八幡新田宮雜掌申、免田御供米事、重訴狀
如此、裁許之後雖催促、不叙用云々、無謂、任先
下知狀等、遂結解、可被究濟也、仍執達如件、

元徳三年七月九日
修理亮(英時)(花押)

嶋津下野三郎兵衛尉殿

(本文書ハ、「旧記雜錄前編一」一五七九号文書ト同文ナリ)

『正文在財部兼川田勘介』

○河田智門房慶喜申、筑前國多々良瀉今月二日合戰
事、慶喜打取敵二人之条、令見知之旨申之、為事
實否、載起請之詞、不日可注申、仍執達如件、

建武三年十七日

(平)
兼政(花押)

(島津)
實忠(花押)

(高)
師泰(花押)

酒匂兵部二郎殿

(本文書ハ、「旧記雜錄前編一」一七九七号文書ト同文ナリ)

『正文在田布施衆二階堂三左衛門豐行』

○神崎三郎重吉申、筑前國多々良瀉今月二日合戰事、

重吉致分取之条、被見知云々、為事實否、載起請

之詞、不日可被注申之由候也、仍執達如件、

建武三年三月十七日

(兼政)
平(花押)

(島津実忠)
前豊後守(花押)

(高師泰)
尾張權守(花押)

(二階堂)
隱岐紀伊權守殿

(本文書ハ、「旧記雜錄前編一」一七九六号文書ト同文ナリ)

○觀應二年七月三日死去、

『二代』
△忠直

初忠頼 又八郎 右衛門兵衛尉

○將軍家尊氏卿之舍弟、左兵衛督直義號錦小路三條殿也、欲誅

戮執事高武藏守師直、此事既露頭、故卻而師直貞

和五年己丑八月十二夜、率軍衆欲圍於三條殿者、

太急也、

尊氏卿謂、師直・師泰專過分之奢侈、亂主從之禮

義、因茲召直義於近衛東洞院御所、欲決安否於兄弟一所、師直兄弟不慮是非引率雲霞之軍勢、所以圍於御所之四面者、未知其幾重也、丁此時叔父四郎左衛門尉時久新納元祖、與忠賴俱、從上總介入道道鑑有外圍軍中、更作行器盛餐飯、與兵器俱負提、而超越築地、入于御所中、令進獻於行器畢、其深情強勇異國本朝無可比類者、自

將軍家至近習伺候之士女等、無襟袖之不露者也、

○上總入道道鑑、欲誅戮谷山郡司平忠高、已結陣於

波平、忠高迴籌策、構一陣於覺島之内牛落ウシワロシ、使弟

祐玄警衛、塞通路及難儀、爰忠直自出水將馳到、

雖然往還通路不自由、於茲忠直使從軍止青屋松原、

只一騎前到于陣下之濱邊、謂高聲曰、和泉右衛門

兵衛尉忠直、所以谷山軍陣為加勢令進發也、此陣

者、有祐玄警護之聞、雖聽其名者有素、未遂識荊

之願、今日不可不見參、一騎俟出陣門之外而已、

祐玄亦無猶豫一騎打出曰、不意參會不可無其興、

敢不可打太刀致合戰移時刻、速引組、而可決勝負

云云、忠直亦謂所以吾好之勝負、而互并轡引組落

兩馬之間、忠直大力無隱于天下、故非裔組勝、且

亦得祐玄之首、丁此時陣中之勇士、與松原之從軍、

同時前寄散火攻戰、陣衆敗北、而戰死之外亦散々

落行畢、忠直到于波平之陣、令拜謁于道鑑畢、

上自太守下至諸卒、忠直之名譽、通路之自由、

云裕云恰莫不感者、恭以、祐玄有餘剛強、不足知

謀、是以如斯、到于後世、亦謳歌之者也、

○屬征西將軍懷良親王宮方、在豐後國、而於當國卒、

三代 〓 氏儀

又三郎 能登守

○於豊後卒、

忠治

又九郎

千松丸

早世、

『四代』
△久親

又四郎 式部大輔 ○弓馬達人也、

○太守元久公治世之際、徵於豊後、故去豊後來當國、
則使吾居求仁院志布志、于時賜百町之地於求仁郷
深川村也、

久儀

又十郎

女子

久氏

又二郎 隱岐守

久頼

又七郎 刑部大輔

忠勝

又六郎

『五代』
△直久

松房丸 又四郎

○應永廿四年丁酉九月十一日、欲攻川邊城之時、
遂戰死畢、

忠次

乙房丸 又五郎

○與兄直久俱、同日遂戰死畢、

忠廣

式部大輔

女子

久清

左馬頭

忠爲

右衛門督泰忠室、

民部少輔

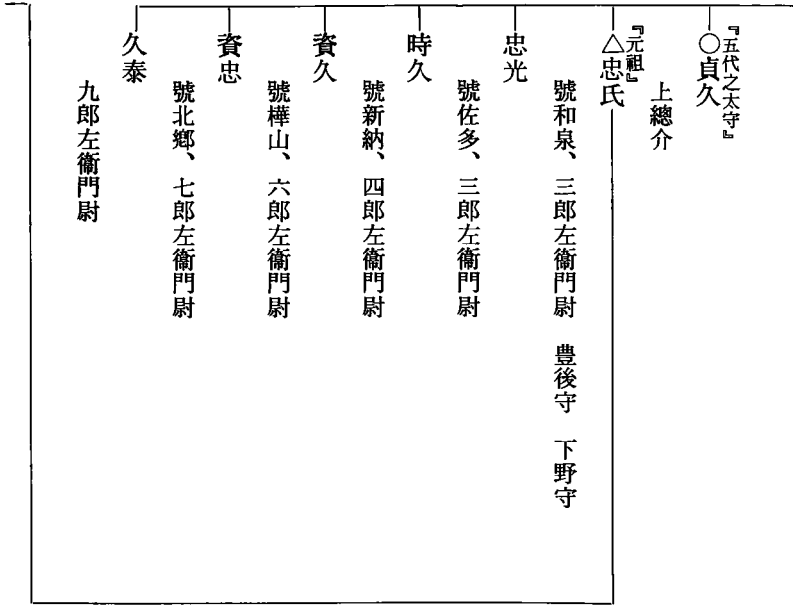
義忠

初忠元 又十郎

属于島津豊後守旗下有飢肥之日、為質入于伊東之
城裏、主中村四郎右衛門尉義秀家、未經歲月變約
又及合戰、於茲忠元將就死地、義秀強請于伊東以
得全露命、且復無世子、故為義秀之猶子、彼家連
統、是以改忠元為義忠也、

和泉氏

和泉氏系圖垂水之士小兵衛尉



△義久

右衛門兵衛 下野守

△忠豊

能登守

此間一世不足可再考、

忠勝

隱岐守

△朝久

四郎次郎

松房丸

○兄弟共ニ川邊合戰討死、

忠次

政久

河合守 ○法名永文、

親久

遠江守 ○法名縁鑑、

家久

三河守 ○法名阿三、

久和

久光

忠經

久貞
越前守

讃岐守

久正

宗兵衛尉

○和泉右衛門兵衛尉忠直者、天下ニモ器量之人ニ取

レシカ、先年御所巻ノ時、叔父四郎左衛門尉時久

ト一所ニ、越築地御所中ニ入、致名譽失其忠節ヲ

モ、又下野守忠氏舍兄 貞久、同兄弟親類ニモ離

レ、宮ノ御所ニ付申、鎮西豊後マテ落下、終ニ豊

州ニテ卒去シ玉フ、御子忠直其子能登守氏義マテ、

終ニ宮方申サレ、是モ豊後ニテ死去シ玉フ、子孫

マテ佐國ノ住人ト成事、口惜次第ニ候、 元久呼

下一家ノ中ニモ置レ候ヘカシト依被仰此旨、豊後

江被仰越、能登守ノ子息又四郎殿久親トテ則下向

ナサル、弓馬ノ道達者ニシテ器用勝他タル人ナリ、

鑾而馬飼所トシテ求仁郷ノ内深川ノ内取合百町計

被遣、志布志居所ト云云、又四郎殿子息松房殿・

乙房殿トテ在リ、二十餘二十ノ内ニテ兄弟 久豊

之御時、薩州川邊討死畢、

忠泰

主水佑 三河守

○予父三島筑後守者、 龍伯尊君ニ御奉公申上候處、

御姫君島津又四郎彰久公ニ御婦入被遊候刻、筑後

夫婦事致供奉、大隅清水參候、然者肝付越前守

殿家中ニ和泉摠兵衛尉久正者、予妻之伯父ニテ候、

我等男子出来候時、為孫引出物、和泉之系圖并長

刀一振被讓置候處ニ、右ノ條々相州公御懷申上候、

其砌 太守義久尊君、下大隅垂水ニ御光駕被遊候

忠親

刻、御懷直ニ右之由御物語被遊候、和泉之系圖御上覽被遊、重テ何程可被仰由候、而其後國分江御使ニ參上仕刻、納戸衆岩切縫殿助殿ヲ以、和泉之系圖ヲ 義久尊君之懸御目、御上覽被遊候而御意候者、御當家五代之 太守貞久公之二男和泉忠氏トテ高家之一筋、中々聊余ニ存上間敷由、御意ニテ候、父筑後夫婦事者、御年來之一筋ヲ以 御懷様為御後見供奉被仰付候、就然、和泉名字ヲ被成御赦、御名乗セ候旨、縫殿助殿ヲ以御意候事、誠感 尊君之御高恩哉乎、蒼海還淺須弥返下矣、枝々孫々マテ為可承置、具ニ書記畢、

島津殿御曩祖五代之 太守貞久公之二男和泉忠氏末孫、

于時慶長十四年八月六日 和泉三河守藤原忠泰

主膳正 小兵衛尉

右系圖一世不足、且復文章雖為異様、當家本譜未出公私、故不改一字隨本書者也、

○寛文十三年癸丑七月二日死、法名響月巨峯居士、景延

喜右衛門

○為島津又助忠清家臣桑波田左近景利之養子、

女子

薩州伊作士宮原治右衛門景利妻、

女子

○母島津小源太 ^(マ) 家臣渡邊茂右衛門豊女也、

○奉仕于 太守光久公、勤御局、

○寶永二年丙戌十月二十二日於武州江戸死、年七十

七、法名法林永救尼庵主、

女子

同家臣町田平左衛門久明妻、

○母同前、

忠誠

平次郎 小兵衛

○寬永十七年庚辰七月十五日誕生、母同前、

○正徳二年壬辰十一月十二日死、法名良秀實貞居士、

忠參

休三郎 茂兵衛

○正保三年丙戌四月誕生、母同前、

○姉奉仕 太守公、勤御局、故依姉之訴、寛文六

年十一月為鹿兒島士、

○延寶七年己未二月二十二日死、年三十四、法名

覺心秀月居士、

氏芳

休五郎 吉兵衛 小右衛門

○寛文十二年壬子十月九日誕生、母島津小源太(ママ)

家臣上田勘右衛門篤廣女也、

○此家之實名避久忠字、可用氏字、家嫡平次郎氏

規受 命傳之、故改氏芳、

氏峯

釜袈裟 小四郎

○寶永元年甲申六月十四日誕生、母有馬次右衛門純

重女也、

小吉郎

早世、

氏苗

袈裟千代

○寶永七年庚寅閏八月朔日誕生、母同前、

久堅

弥五兵衛 吉兵衛

○寛文七年丁未三月二十四日誕生、母同家臣宮原治

兵衛景昌女也、

○忠誠依無男子為猶子、實同家臣有馬休兵衛純長之

二男也、

○寶永五年戊子四月十四日死、法名無端玄太居士、

女子

鹿兒島士帖佐次五右衛門宗治妻、

○母同家臣町田次郎兵衛久明女也、

女子

久堅妻、

○母同前、

女子

同家臣安山仲太夫親茂妻、

○母小兵衛忠誠女也、

氏規

平次郎

○元禄十六年癸未四月二十五日誕生、母同前、

○正徳三年、太守吉貴公以肝付主殿兼柄降命曰、

當家之實名避久忠字、可用氏字、書氏字賜證帖、

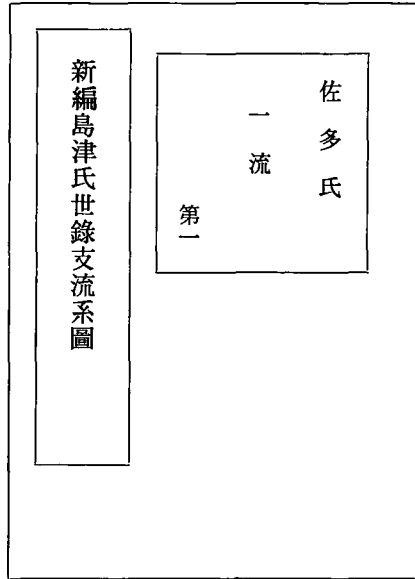
故改氏規、

氏秀

熊次郎

○寶永二年乙酉十二月六日誕生、母同前、

(表紙)



△忠光

師忠 三郎左衛門尉

○四代 太守下野忠宗公之三男也、

○初賜薩州甕島郡居敷住之、後賜隅州大隅郡佐多領之、因以佐多為家號、

○文和二年五月十一日、

大樹尊氏公、賞忠光之軍功、賜薩州智覽院、

464 『御文書方寫在二三之卷』

○下 嶋津三郎左衛門尉 法師道名
法道跡

可令早領知薩摩國嶋津庄内智覽院郡司四郎忠世跡事、

右、為勲功賞、所宛行也者、早守先例、可致沙汰之狀如件、

文和二年五月十一日

『二之卷續目裏判』

(今川了俊)

(花押)

『三之卷續目裏判』

(澁川滿頼)

(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二四八〇号文書ト同文ナリ)

465 『御文書方寫在二三之卷』

○薩摩國嶋津庄内智覽院郡司四郎忠世跡事、早任今

月十一日御文之旨、可沙汰付嶋津三郎左衛門入道
道弥之由、可令下知代官給之狀、依仰執達如件、

文和二年五月廿二日

沙弥在判

(一色直氏)
右京權大夫殿

『二之卷續目裏判』

『三之卷續目裏判』

(今川了俊)
(花押)

(淡川清頼)
(花押)

(本文書ハ「旧記雜錄前編」二四八四号文書ト向文ナリ)

○四月六日死不詳其年次、法名道珍、

△忠直

又四郎 左馬助

○建武二年乙亥誕生、

○延文四年十月五日、從 太守氏久公、軍日州南郷

國合力戰數回、竟結纓、年二十五、法名道覚大禪

定門、

備前守

○母妾、

○兄忠直戰死嗣子氏義幼若也、以故養育之立為家統、

若狹守

母妾、

○子孫記于他卷、

彦四郎

○兄忠直同時戰死、

女子

○母同忠直、

○太守氏久公後之夫人、久豊公之母堂也、

三郎四郎

○母同、

○兄忠直戰死之日、聞其告馳入敵軍竟戰死、是時當

家重寶號爪切丸太刀為敵奪之、

山城守

○母妾、

△氏義

武義 又四郎 豊後守

○文和四年乙未誕生、

『正文當家有之』

○延文四年父忠直戰死、氏義僅五歲也、叔父備前守使養育之相統家督、

○永徳元年六月一日、禰寢氏掠取佐多城、

○應永四年九月二十日、探題渋河右兵衛佐滿頼、賜安堵之證帖、左開之、

○大隅・薩摩兩國本領地事、知行領掌不可有相違之

狀如件、

應永四年九月廿日

(渋川滿頼)
右兵衛佐 (花押)

佐多豊後守殿

(本文書ハ「旧記雜錄前編二」五九二号文書ト同文ナリ)

○應永三十四年丁未五月十九日死、年七十三、法名怡閑淨了大禪伯、

龍川

祥雲寺二代、

△親久

又太郎 伯耆守

○永和元年乙卯誕生、

○應永二十年冬、伊集院頼久叛 太守公、襲覺府本

城且陣原羅、親久從軍 公其功若干、

○同二十七年、薩州河邊・同國智覽、入 太守公之

手裏、智覽為當家舊領之地、以故賜上木場智覽二十

町、

○親久軍自國他邦、攻城野戰其功不少、其後移智覽

城、

○長祿二年戊寅八月二十二日死、壽八十四、法號退

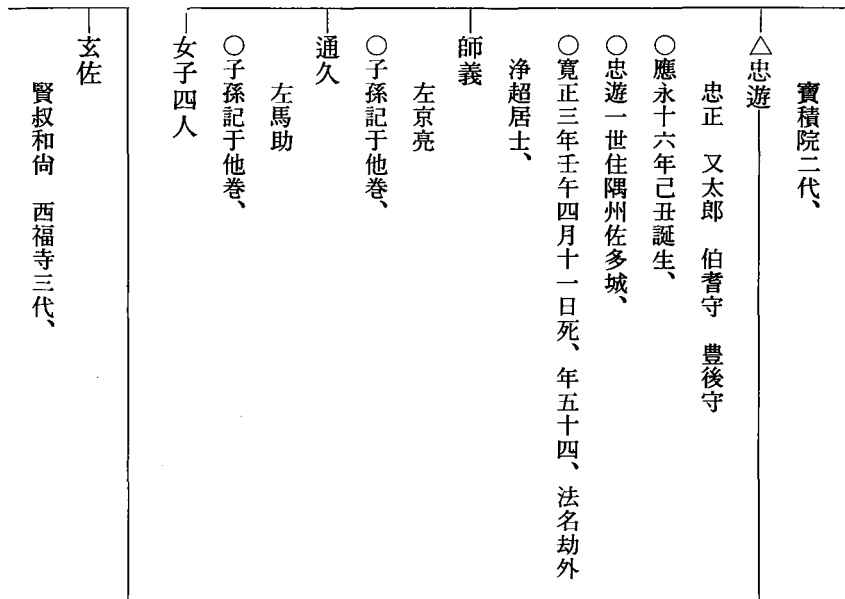
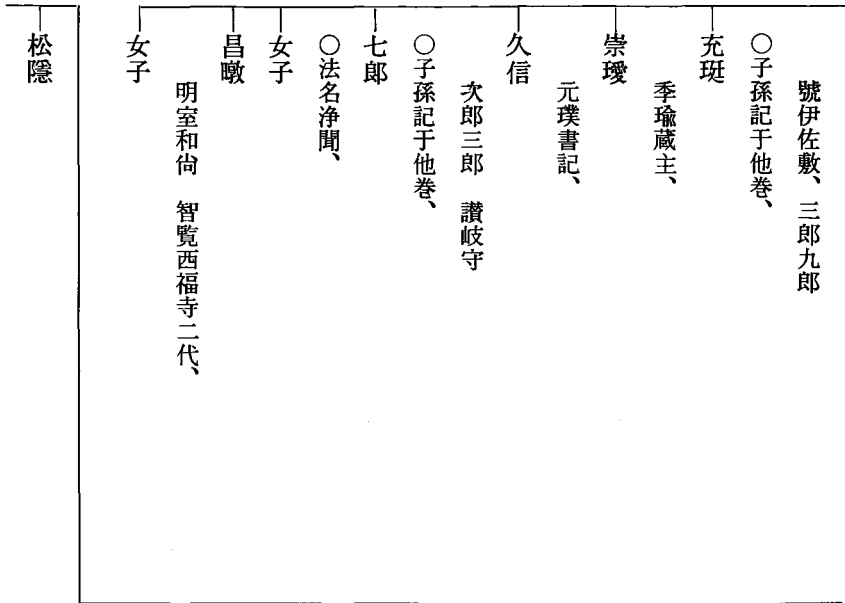
休道哉居士、

元忠

忠元 弥三郎 左近大夫

○子孫記于他卷、

忠豊



△忠山

忠成 又太郎 太郎左衛門尉 下野守

○嘉吉元年辛酉誕生、

○當家二代左馬助忠直戰死日州國合之時、當家重寶稱爪切丸太刀為敵奪之、是歲文明五年四月、經一百五十年、有故再筭藏之永傳子孫、

『正文在佐多又四郎内知覽之住難波青圃』

○さつまの國みなミかたせいしやうなんきにおよぶ所と、しゆくゝの手を入候て、山田をたいちさせ候ちうせつニよつて、おとなりとよひ、やかておとなり遣候、のちくまでのしるしのために、おとなりとら太郎ニはんをつかわし候、

佐多忠成(花押)

(長襟)
ちやう六四年

十一月廿八日

(本文書ハ「旧記雜録前編二」一三九四号文書ト同文ナリ)

○文明十六年之冬、島津式部大輔久逸攻新納近江守

忠統所衛之日州飢肥南郷城、時忠山将兵加勢久逸竟戰死、年四十四、法名孝岳道忠禪定門、

玄育藏主

守勤藏主

女子

新納駿河守是久妻、

松三郎

千松丸

忠敏

又九郎

松五郎

女子

島津下野守延久妻、

女子

女子二人

△忠和

又太郎 伯耆守

○文明九年丁酉誕生、

『正文當家有之』

○依無指題目、不申通遣恨候、抑就家門由緒之儀、

雖其憚多候、助成之事連々申候、可然之様、此節

別而馳走頼入計候、猶不断光院可有演説候也、

かしこ、

三月五日

(近衛種家)
(花押)

佐多伯耆守とのへ

(本文書ハ「旧記雜録前編二」一九四五号文書ト同文ナリ)

○大永元年辛巳四月八日死、年四十五、法號俊翁道

英居士、

△忠成

清久 又太郎 上野介 入道半門齋、

○明應七年戊午誕生、母島津下野守延久女、

○天文八年秋、軍薩州市來戰功居多、

○同十八年己酉十一月二十八日死、年五十二、法名

義山道節居士、

佐津

廣濟寺住持、

女子三人

松千代丸

袈裟松丸

梁猷

僧、

女子

島津右馬頭忠將妻、

○母島津相模守運久入道一瓢齋女、

△忠將

忠諧 又太郎 伯耆守 入道牛賢、

○永正十四年丁丑誕生、
 ○慶長元年丙申十二月二十九日死、年八十、法山照
 山常鑑居士、
 忠眞

久三 又六 兵部少輔

○母同、

○子孫記于他卷、

△久政

忠常 又太郎 常陸介

○天文十五年丙午誕生、

○太守義久公所賜之華翰開于後、

『正文當家有之』

○仲陽之御慶重疊、珍重々々、幸甚々々、仍至飯野
 年越之番、寒中之辛勞不及申候、此等之趣于今令
 無音候、就者近日境目へ可為出張候、軍衆之事被

加催促、人数勢々与候之様、可為肝要候、巨細之
 日限等者、從老者可申候、恐々謹言、

貳月二日 義久(花押)

佐多又太郎殿

(本文書ハ「旧記雜録後編二」二五七号文書ト同文ナリ)

○久政從軍 太守公屢抽勲功、

○天正十五年丁亥三月十四日、久政守衛豐州瀧田城、
 時敵兵大逼、久政奮戰死、年四十二、法名春岩道
 劫上座、

女子

喜入攝津守秀久妻、

久治

記久 又十郎 源三郎 式部少輔

○子孫記于他卷、

久宗

宗久 惡八 源三郎 民部少輔

○子孫記于他卷、

△久慶

太郎次郎

○永祿年中誕生、母島津左兵衛尙久女、

○天正十九年、 太守公應 台命三州之所改替其地、以故久慶去舊領智覽移同國河邊智覽種子、島氏領之、

○慶長九年甲辰六月二十一日死、法名幽山賢心居士、

久英

休作 民部左衛門

○子孫記于他卷、

△忠充

忠泰 長壽 又太郎 伯耆守

○天正十六年戊子誕生、母島津中務大輔家久女、

○從父久慶移河邊、

○慶長十五年、轉河邊復舊領知覽、

○寬永九年壬申十一月十二日死、年四十五、法名月

山高松庵主、

女子

北郷久次郎久村妻、

△忠治

又太郎 丹波

○慶長十年乙巳誕生、母鎌田藏人政富女、

○寬永七年四月、

大樹家光公 大相國秀忠公光臨 太守家久公東都

櫻田館、 公一族家臣十餘輩奉見 兩公、忠治在

其列、

○寬永九年壬申正月九日死、年二十八、法號心翁久

安居士、

政永

長五郎 掃部助 藏人 甚右衛門

○慶長十四年己酉十一月十八日誕生、母同、

○鎌田長門政基之養子、

久貞

忠昌 右近 四郎左衛門 又右衛門

○慶長十七年壬子正月八日誕生、母同、

○寺山出羽久豊養子、

女子

島津豊前久守妻、

○母同、

△久孝

長壽 又四郎

○寛永五年戊辰正月十日誕生、母島津下野久元女、

『正文當家有之』

○為年首之嘉祥被差越使者、殊太刀一腰・馬一疋到來、於遠境被入念之段欣然候、猶新納右衛門佐・

鎌田源左衛門尉可申候也、

正月廿八日

光久

佐多又四郎とのへ

(文本書ハ「旧記雜錄後編五」一四二号文書ト同文ナリ)

○明曆二年丙申閏四月九日死去、年二十九、法名家

岳栄仙居士、

女子

久利妻、

○母鎌田源左衛門政有女、

△久利

米松 三次 三郎兵衛 丹波

○正保三年丙戌正月二十四日誕生、母 太守家久公之御女、

○久利實肝属伴兵衛兼屋之三男也、

○慶安四年、太守光久公使米松準 公之庶子居于城中、

○同年九月、首服、光久公手自加冠、

○明曆二年八月十四日、奉 嚴旨相統當家、

○寛文十年夏、太守公帰國、久利為謝使至東都拜

謁

將軍家、述 公之謝禮、獻御太刀一腰・白銀一枚、

將軍家賜帷子五・袷羽織二、

○同十一年辛亥二月二十一日死、年二十六、法名玉

峯全白居士、

女子

久達妻、

○母町田勘解由忠代女、

米松

夭亡、

△久達

貞朝 虎三郎 市右衛門 内記 備後 豊前

備前

○慶安四年辛卯十月十五日誕生、母妾、

○久達 太守光久公之五男也、

○寛文元年、奉 公之嚴旨、稱伊勢兵部貞昭之子、

為 幕下伊勢兵庫貞衡之養子、同年八月、發府同

九月十八日至江府、入貞衡之宅、奉事幕府、

○同十一年、辭伊勢氏、是因養父貞衡生實子貞守、

○同十二年三月、相統當家、同晦日發江府、同五

月二十八日至覺府、直入佐多氏宅、

○同年閏六月十一日、奉 命每日入評定所練習政事、

○同年十一月、補智覽地頭職、

○延寶四年、加賜采地五百石、

○同十月二十四日、光久公命久達曰、當參觀交代

之時 拾遺綱貴公亦有不在國、是間久達可為城代

職、以故勤其職、

○智覽者當家世傳領之地也、十二代家督伯耆忠充

使一族家臣六七輩奉仕 太守公、稱之智覽士、從

夫以來於智覽領主而又兼地頭職、

○延寶五年六月八日、以智覽如元一為私領、賜薩州
顯娃地頭職、令先是稱智覽士者六七輩為久達之屬
士、

○同八年三月三日、補家老職、賜職田二千石、城代
職如元、

○同年六月十四日、轉薩州顯娃補同國加世田地頭職、

○元祿六年、以氏族供奉 太守公赴江府、同年四月

十二日、從 公登 城拜謁

大將軍綱吉公、進獻御太刀一腰・白銀一枚・袷衣

六、

○同十年二月十六日、奉 嚴旨止家老職、勤城代職、

職田如元、同月二十七日、 太守發府赴江城、久

達供奉、同年四月十五日、扈從 公登營拜謁 台

顏、進獻品物同先規、

○寶永四年九月、轉加世田補日州高岡地頭職、

○正徳元年九月十五日、 太守吉貴公、以島津稱號

永賜之降命曰、當家之嫡子代代用之、二男以下以

佐多氏如元可稱之、

○同三年三月二十五日、 公降命曰、於久達之家、

免嫡子代代實名用久字、二男以下家不許之、以直
字可為實名、因賜證帖、肝屬兼柄傳之、

— 女子

— 早世、

○母久孝女、

— 久基

— 虎一 右近

○延寶五年丁巳六月八日誕生、母同、

○天和三年十一月二十二日、首服、 綱貴公加冠、

且賜脇刀、島津市正忠廣理髮、

○元祿四年辛未十一月十二日死去、年十五、法號法

照院月鑑霜白大居士、

— 久武

長熊 長左衛門 又四郎 木工 內記 木工

○貞享元年甲子正月二十四日誕生、母薩州高江土羽月弥六兵衛元重女、

○元祿三年九月十七日、太守綱貴公光臨父久達之宅、於是久武首服、公手自加冠、且賜脇刀、喜入又兵衛久亮理髮、

○同十二年正月、補二番組頭、

○寶永二年九月朔日、太守吉貴公継家統始歸國、

以故久武為謝使赴東都、同年十月十五日、登 營

拝謁

大將軍綱吉公、拝領時服三・道服一、

○同五年三月六日、補大目附役賜職田五百石、

久

萬五郎

○元祿元年戊辰十月二十五日誕生、母同于久武、

○大野隼人久明養子、

九十郎

天亡、

直賢

久品 所次郎 次郎兵衛

○元祿七年甲戌八月三日誕生、母家臣朝隈平右衛門

兼重女、

○元祿十四年十月十二日、綱貴公光臨久達之宅、

於是直賢首服、公加冠、喜入安房久亮理髮、

女子

島津主計久名妻、

○母同、

直澄

久年 七九郎 喜六郎

○元祿十一年戊寅十月十一日誕生、母同、

○寶永三年三月二十六日、太守吉貴公入御久達之

家、時直澄元服、公加冠之、島津中務久輝理髮、

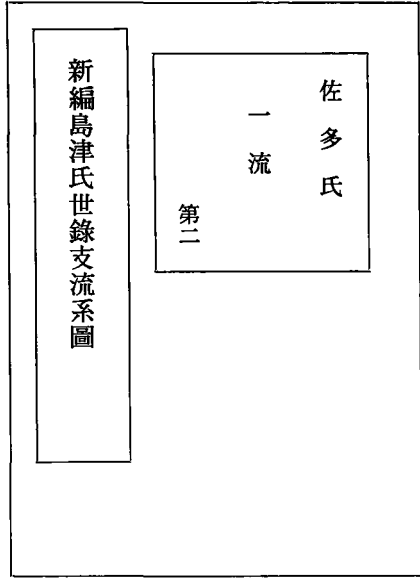
女子

天亡、

女子

○母肝屬主殿兼柄女、

(表紙)



佐多氏庶流
佐多若狹一流系圖

若狹

○若狹者佐多氏元祖三郎左衛門尉忠光之三男也、

左衛門

○法名喜庵宗悦居士、

○薩州伊集院士、

久慶

紀伊介

○法名月憲桂秋居士、

忠辰

四郎三郎 紀伊介

○天文十三年甲辰誕生、

○忠辰移居日州清武及上別府等之所、

○天正十四年丙戌七月二十七日、戰死于筑前岩屋、

行年四十三、法名關山祚透居士、

○按若狹與忠辰之間代数闕歟、

忠景

四郎三郎 兵右衛門 外記

○天正三年乙亥十月五日誕生、

○承應元年壬辰五月四日死去、享年七十八、法名義

悦正淳居士、

忠昌

初忠宣 四郎三郎 兵右衛門

○法名月船常岸居士、

○日州穆佐之士、

女子

圖師平兵衛島津兵庫忠之妻、

忠祐

千代壽丸 三郎四郎 外記

○寛永三年丙寅六月七日誕生、母吉留隱岐日州高岡之士、

久邦

宮千代丸 休四郎

○寛永十三年丙子五月十八日誕生、母同、

○為板橋氏日州穆佐之養子、後復本氏為忠昌之末子、

女子

指宿左近兵衛日州高岡初妻、

久致

初忠親 萬千代丸 四郎三郎 四郎兵衛

○正保四年丁亥七月八日誕生、母同、

久邦

宮千代丸 休四郎

○初為板橋氏日州穆佐之養子、後復本氏為忠昌之末

子、

久根

萬之助 權四郎

○延寶三年乙卯八月二十六日誕生、母四位大藏日州穆佐之士、

女子

女子

大井長三郎日州諸郡高城妻、

直

久記 虎千代 兵右衛門

○寛文六年丙午十一月二十四日誕生、母大井五兵衛

秀義日州諸郡高城士女、

受家嫡之令避久忠之字、以直之字為實名、

直

久飽 千之助 四郎右衛門

○寛文十三年即延寶元癸丑二月十四日誕生、母同、

直

久英 虎松 四郎三郎

○貞享二年乙丑七月二十九日誕生、母大井五左衛門

秀昌日州諸郡高城士女、

直

久雲 佐部千代 四郎五郎

○元禄三年庚午十一月二十三日誕生、母同、

直

仙之助

○元禄十六年癸未七月十二日誕生、母同、

女子

佐多氏庶流

佐多左近大夫元忠一流系圖

元忠

或忠元 弥三郎 左近大夫 法名淨慶、

○元忠者佐多氏三代家督豊後守氏義之三男也、

○元忠與 太守元久公結父子之盟、領指宿一所云云

按元忠之元者元、久公之所賜歟

○元忠之子孫世不出家督之家、

伊忠

太郎三郎 發心而名淨秀、

○相統伊佐敷家云云、今按伊佐敷之元祖忠豊者、元

忠之弟而伊忠之叔父也、忠豊之子曰氏豊、氏豊之

子曰久尙、伊佐敷系圖中無伊忠者、以伊忠父子為

僧考之、伊忠初為忠豐之養子、後忠豐生實子氏豐故、父子辭伊佐敷家去共為僧者歟、

玄津

僧、

女子二人

忠和

弥三郎

咸普

僧、

忠江

初生久 弥六 隼人助 佐渡 法名松岡淨貞、

○按兄弥三郎忠和無嗣子故、忠江繼家統者歟、

師透

僧、

○住于中國龍文寺不詳其國、

松次郎

光久

次郎四郎 八郎左衛門 佐渡 法名慶顏淨賀、

女子

透虎

僧、

忠眞

眞或作實、或忠恒 又九郎 左近大夫 佐渡

○養子、實同氏若狹忠岡之二男也、

久於

或伊久 又五郎 右近 加賀

○忠眞無男子、故以女子妻之為養子、實同氏筑前延

久之二男也、

女子

久於之妻、

久江

又次郎 勝左衛門

○戰死于濃州大垣関ヶ原之役、

女子

久延

四郎三郎 右近 晚年為山伏稱法印權大僧都賴

久坊、

○養嗣、實同氏神祇祐久林入道加津之二男也、

○寛文四年甲辰五月二十八日死去、

女子

兒玉清左衛門利尙薩州市來之士妻、

女子

長田源左衛門薩州指妻、宿之士、

○母同氏紀伊介久充女、

久時

近平 内匠 休右衛門 紀伊介 休太夫

○慶長五年庚子誕生、

○養嗣、實同氏加左衛門久賴長子、

○承應元年壬辰八月二十八日死去、歲五十三、法名

屋翁自昌上座、

女子

名越太郎左衛門只秀妻、

直干

久都 佐平次 加左衛門

○寛永元年甲子正月四日誕生、

○受宗家之令、改實名直之字、佐多稱號如元、

女子

原口権左衛門薩州谷妻、山之士、

女子

西次郎右衛門忠頼伊勢兵妻、部家臣、

女子

同氏十郎左衛門久致妻、

○母同氏狩野介久資入道阿印女、

直棟

久掄 加賀右衛門 弥右衛門 半七 正左衛門

○寛文元年辛丑二月二十四日誕生、母同、

直規

久明 長菊 五右衛門

○寛文六年丙午十一月二十二日誕生、母同、

○受宗家之令改家號于達山、

女子

平井勘右衛門政照薩州谷山之土妻、

○母同、

女子

○母清藤十右衛門佐多家之臣女、

直意

勘十郎 五左衛門

○元禄八年乙亥九月二十一日誕生、母同、

直良

五兵衛

○元禄十六年癸未正月十二日誕生、母同、

女子

○母森十兵衛重義女、

直貞

久林 半十郎 伴七

○元禄三年庚午八月六日誕生、母同、

直記

弥太郎 吉兵衛

○元禄十年丁丑十月四日誕生、母同、

直盈

加賀右衛門 嘉四郎

○元禄十三年庚辰四月二十四日誕生、母同、

佐多氏庶流

伊佐敷三郎九郎忠豐一流系圖

忠豐

號伊佐敷、三郎九郎

○忠豐者佐多氏三代家督豊後守氏義之四男也、

○永徳元年辛酉誕生、

○忠豐受父之讓領伊佐敷村在佐多、故以伊佐敷為家號、

○應永二十年癸巳十二月八日、伊集院彈正頼久窺

太守久豊公之不在、將兵來襲魔島本城、時忠豊盡

筋力防戰、遂戰死于本城昆沙門堂、享年三十三、

法名浄因、從兵十一人同死也、

氏豊

三郎太郎 法名足翁、

○氏豊老後去魔府移居知覽、

女子

枝次筑前守吉平妻、

湏益

大庵和尙、

久尙

太郎三郎 尾張 法名孝山洋忠、

女子三人

右馬助

安千代 助八郎 法號眼叟道因、

女子

遊久

又七郎 左馬 加賀 法名遠慶道久、

女子

爲久

中務 法名玄傳爲久、

○母島津山城忠聖女、

○爲久好和歌兼嗜連歌、多年遊京師友紹巴・昌毗等、

請點削通交情之遺書、于今存者多矣、

經久

又七郎 宮内 備中

○佐多備中猛久之養子、

猛久

又九郎

○弘治二年丁巳十二月二十四日、戰死于蒲生馬立、

行年二十六、法名慶室道善、

女子

土持大膳妻、

久理

菊壽 左近

○永祿六年癸亥誕生、

○天正十四年丙戌冬、 太守義久公將大軍伐豊後大

友氏、久理侶家督常陸介久政從軍于 義弘公、勞

所所之軍務、

○義弘公陷豊後瀧田城、使久政守之、久理從之、

○同十五年丁亥三月十四日、與久政共戰死瀧田城後、

享年二十五、法名春清居士、從卒五人同戰死焉、

女子

海江田十兵衛妻、

久基

小左衛門 將監 平兵衛

○天正十年壬午誕生、

○久基幼而喪父、憑家督太郎次郎久慶居于知覽城中、

後自 太守公賜采地百石、移居出水、其後移伊作、

或候覺府、又為知覽之士、

○久基因家督伯耆忠充免許、初冒佐多號、

○寬永十二年乙亥四月四日死去、法名天應玄清庵主、
歲五十四、
久充

紀伊介 入道名泰雲、

○久充實佐多備中經久之二男、而稱佐多紀伊介久充、
久基幼少而在知覽之際、久充輔佐之久充與久理者從兄弟也、暨
久基之移出水、久充留領久基之粮田久慶之所分附也、在知覽
者、為其弟立家仕于家督之家、子孫皆然、
○子孫記于他卷、

女子

久時之妻、

久時

善兵衛

○慶長十九年甲寅誕生、
○久時實相良五左衛門賴廣之二男也、久基無男子、
故以女子妻之為後嗣、

○久時蒙 太守公之嚴命、去知覽移居于覺府也、
○寬文九年己酉五月二十三日死去、法名臺獄常三居
士、行年五十六、

直

久近 松千代 正右衛門

○正保三年丙戌九月十九日誕生、母久基女、

○元祿十一年戊寅三月二十七日、 嗣君吉貴公光臨

于久近之宅、賜金子五片、獻盛饌、

○久近仕于 太守綱貴公 嗣君吉貴公、拜賜自畫自

書及衣服魚鳥等、不遑枚舉、

○受宗家之命改實名直之字、佐多稱號如元、

女子

山口仁右衛門利重妻、

○母同、

○嗣君吉貴公之乳母、

女子

伊東作太夫妻、

○母同、

直

久白 松千代 監物 平左衛門

○寛文十一年辛亥二月十一日誕生、母伊勢早左衛門

貞隆女、

女子

尾上甚五左衛門信茂妻、

○母同、

女子

比志島隼人範房妻、

○母同、

佐多氏族伊佐敷氏庶流
伊佐敷紀伊介久充一流系圖

久充

紀伊介 入道名泰雲、

○久充實佐多備中經久之二男、而稱佐多紀伊介久充、

久基幼少而在知覽之際、久充輔佐之久充與久理、暨者從兄弟也

久基之移出水、久充留領久基之粮田久慶之所分附也、在知覽

者、為其弟立家仕于家督之家、子孫皆然、

○朝鮮之役 太守義久公構陣營於肥州名護屋、國中

士庶勤之、久充督知覽之役夫、而到彼地勤勞有日

矣、

久誠

仲左衛門

○七月不詳其年十二日死去、法名賀安道慶、

女子

同氏右近久延妻、後嫁岩切四郎左衛門指宿之士、

久行

初久利 主膳 入道名宗益、

○慶長十六年辛亥誕生、

○祖父佐多紀伊久充、已為伊佐敷久基之弟、則其號可伊佐敷、然不改其舊號、至久行尙稱佐多、十四代家督久孝令久行始稱伊佐敷、

○貞享三年丙寅六月二十五日死去、享年七十六、法名月光宗益居士、

女子

難波主稅助経吉妻、

女子

東郷内藏助忠頼妻、

久次

仲在衛門

○無子孫、

久種

休三郎 上之丞 曾右衛門

○寛永五年戊辰誕生、母松清對馬女、

○延寶八年庚申十二月二十九日死去、行年五十三、

法名眞知良翁居士、

女子

肝付伊作伊勢氏之家臣妻、

○母同、

久郷

五兵衛 後為山伏號仙識房、

○無子孫、

直安

初久愷 久庭 金千代 五右衛門 大内藏 入

道名道豫、

○寛文元年辛丑三月二十九日誕生、

○直安實山内孝右衛門重貞嫡子也、重貞仕于久利・

久達而劳家事者也、久種死後、雖有實子、直慶・

直皓幼而不知東西、從其母往于他、時久行老尙存、

家風零落矣、於此家督久達憐久行之饑寒、賞重貞

之勲勞、使嫡子直安為久種之後嗣育久行以為氏族、
久種之實子直慶・直皓為直安之弟、直安事于久行、
以養終、且以己之功再興其家、

○貞享三年丙寅三月、上京受醫業於井原道悅也、

○元祿二年己巳二月、屬村尾源左衛門重榮航于琉球
國、

○同三年庚午正月十六日、拜謁中城王子中山王尙
貞之嗣子・佐
敷王子中城之
嗣子、

○同二月十五日、於那霸之茶亭、中山王尙貞設酒奉
盃而賜直安、

○同四年辛未秋、帰朝也、

○同五年壬申三月、再上京學醫於北尾芳庵法印、

○同十月六日、憑進藤修理亮近衛基熙
公之家老之執拳、拜謁
近衛内府家熙公、

○同六年癸酉二月、近衛関白基熙公自書和歌紙色

同家熙公自書和歌及文章韓子之符讀
書城南之篇一篇、以賜直安、
進藤修理亮傳之、拜戴以為家珍、

○同三月、直安從家督久達赴于武城時直安在京師、
往大坂從之、同
六月帰國、

女子

入佐次郎左衛門谷山妻、
之七妻、

○母日高大右衛門女、

直慶

久員 虎松 曾右衛門

○延寶元年癸丑十一月二十一日誕生、母同、

○雖為久種之實子、從于母零落、不能統其家、故
家督久達以直安為久種之後嗣、令直慶・直皓為
其弟、

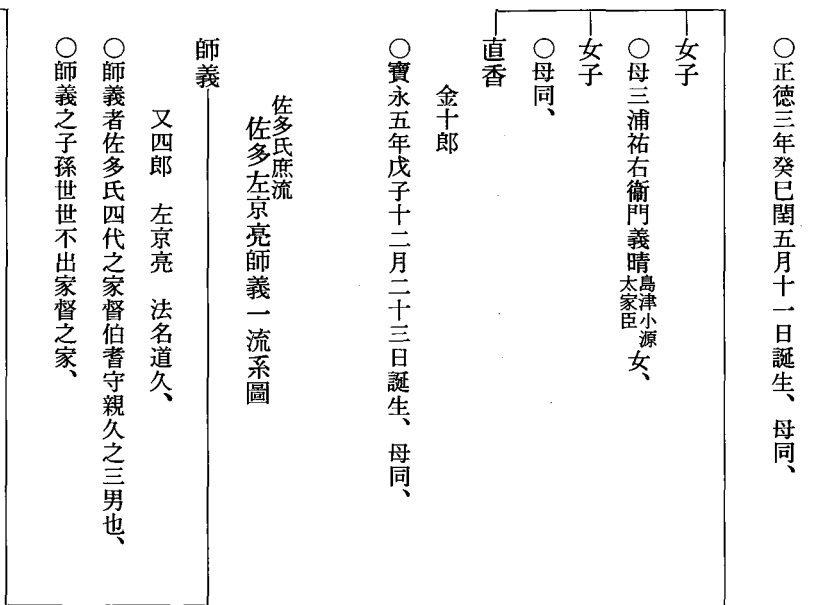
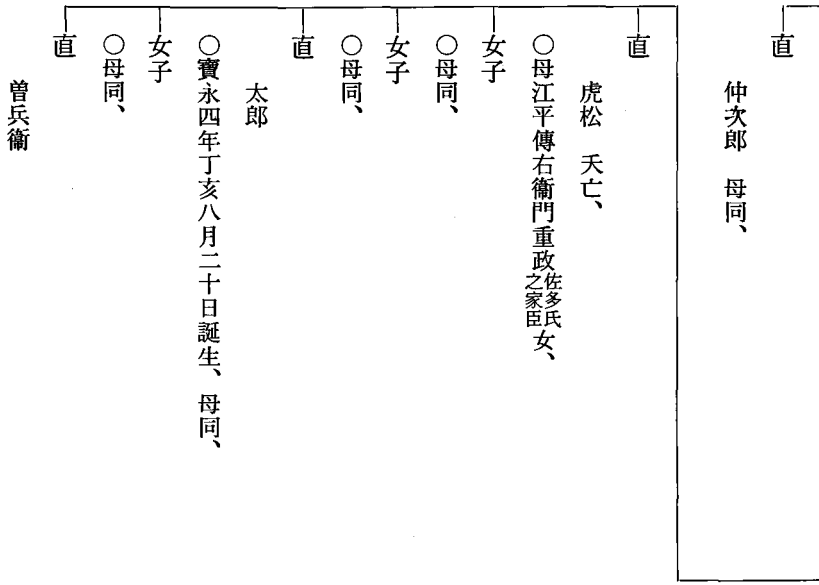
直皓

久兩 休三郎 新五左衛門

○延寶七年己未三月四日誕生、母同、

女子

○母竹之内長右衛門土持氏女、
之家臣女、



久林

松若 左京亮

忠顯

安徳 源左衛門尉 備中守

○子孫略之、

女子

比丘尼、

倫久

三郎房 筑前守

宮鶴丸

透龍

安法師

女子

延久

又八郎 新左衛門尉 筑前守 法名棟久、

久福

初忠苗 又八郎 治部少輔 周防介

○久福素住于知覽門之浦、天正年間久福之家人等、

有為海賊者、所挿其船上旌旗、皆書曰佐多周防

介以久福有勇名、賊徒、為借其威書姓名云云、因之久福不免其罪伏誅、加

之觸 殿下秀吉公之怒、殃將及於嫡家、因 太

守公之訟訴、漸而免、從此後不立久福之後、一

流乃斷絶、

○久福家藏系圖曰、有久福之養子又八郎久誠者、

而後辭去云云、而為同氏兵部少輔忠真之二男也、

考忠真家流藏系圖、忠真有二男子、一云越後守

忠増、二云鎌田加賀守政在鎌田大炊助、政次之養子、而無久誠

者、今久福之系圖以久誠系忠真之二男、按之初

為久福之養子、稱又八郎久誠、後辭去為鎌田氏

之養子、稱加賀守政在職、不知其詳、拳而說以

備再考而已、

<p>久直 縫殿助</p>	<p>久師 源五郎 縫殿助 ○戰死於朝鮮國、 源左衛門 ○兄久師同時戰死<small>時稱池上源左衛門、疑、爲池上氏之養子者歟、</small></p>	<p>紀伊守 又五郎 外記 ○無子孫、 主水祐 又七 ○同氏佐渡守忠真之養子、 久於 又五郎</p>
-------------------	--	--

<p>忠重</p>	<p>久往 袈裟千代 與一兵衛 納右衛門 ○無子孫、 女子 瀨戶口權右衛門妻、 女子</p>	<p>久起 木工兵衛 ○慶長三年戊戌誕生、 ○明曆二年丙申四月九日死去、歲五十九、法名道春、</p>	<p>忠安 藤七左衛門 ○久直請家督久孝、假改號藤枝<small>此時家風大衰、故、避冒嫡家之號也</small></p>
-----------	--	--	---

虎千代 主殿 七郎左衛門

○寬永二年乙丑四月五日誕生、母日高五右衛門女、

○祖父久直假號藤枝、至忠重訴復本氏於家督久達、

久達不許、使之冒伊佐敷號、以故忠重及弟等稱伊

佐敷者多年、後久達考其家系之所自出許之、使忠

重冒佐多號、弟等共復本氏、

○寶永三年丙戌八月十二日死、法名月溪松雪居士、

久里

藤七

○寬永十五年戊寅二月二十日誕生、母同、

直徵

初久能 松千代 藤左衛門

○養子、實勘右衛門久伴之弟之嫡子、

○受宗家之令改家號于達山、

女子

○母佐多家臣田代少右衛門女、

直能

山松 勘右衛門

○元祿十一年戊寅八月二十三日誕生、母同前、

直興

吉滿

○元祿十二年己卯六月八日誕生、母同前、

直

喜右衛門

○寶永六年己丑四月十五日誕生、母同前、

久伴

吉千代 勘右衛門

○正保二年乙酉三月十八日誕生、母同、

○正徳元年辛卯四月十七日死、法名中介淨勤居士、

女子

相良權太夫長規家臣前田戸左衛門妻、

○母佐多氏家臣折田太右衛門貞行女、

久能

松千代 藤左衛門

○寛文九年己酉十一月十二日誕生、母同、

○伯父藤七久里之養子、

直路

初久方 長龜 源左衛門

○延寶元年癸丑六月八日誕生、母同、

○兄久能為伯父久重之養子、故久方相統父家、

○受宗家之令改家號于達山、

女子

佐多氏家臣長崎源右衛門高豊妻、母同、

女子

佐多氏家臣村永孫兵衛重堯妻、母同、

女子

○母佐多氏家臣松清用右衛門重有女、

直

仲四郎

○寶永七年庚寅十月朔日誕生、母同前、

直長

久張 虎松 重助 早右衛門 早兵衛 十郎右

衛門

○寛文九年己酉七月二十二日誕生、母吉峯次郎兵衛

河邊郡女、
山田士

○受宗家令實名改直字、冒佐多氏如元、

女子

佐多氏家臣寺師次兵衛宗美妻、

○母同家臣宮原一兵衛景澄女、

直觀

虎松

○元祿十五年壬午十一月二十日誕生、母同前、

直平

伊與助 助右衛門

○寶永二年乙酉三月二十六日誕生、母同前、

直寧

松之助

○寶永四年丁亥九月六日誕生、母同前、

佐多氏庶流
佐多備中忠顯一流系圖

忠顯

安德 源左衛門尉 備中

女子

比丘尼

忠周

又四郎 民部 法名華林、

○同氏周防介久福師義流所家藏系圖曰、忠顯之嫡子

云忠繩、二男云久智、而久智為兄忠繩之養子次家

統云云、仍之按之忠周・忠繩者同人乎、然忠周者

號又四郎・民部・法名華林、忠繩者號左衛門・備

中、其名字相違且無傳記之可竝考者、今且從忠頭

流之系圖、又舉一說而備再校也、

猛久

初久智 小五郎 右馬助 備中 法名然嚴、

經久

初恒久 又七郎 宮内 備中

○大永五年乙酉誕生、

○養子、實伊佐敷加賀遊久之二男也、

○永祿十年丁卯十二月二十五日、戰死于曾木天道尾、
行年四十三、法名一林、

久朝

金千代 狩野介 入道名安心、法名昌應、

○久朝少壯嗜文学、天正年間学客于京師、時有佐多

周防介久福海賊之聞伏誅、其餘殃欲及家督太郎次

郎久慶、其聲振京師、久朝聞之以為是即危急存亡

之秋也、乃密覓便於嵯峨之角倉富家有貨資久朝約以久慶之所領之

田地之巨錄爲、實借之云云、以賂之于三奉行輩、熟語久慶不闕其

事之實、官吏咸額、其后 太守公告海賊之事非久

慶之所為於官家、官吏皆因兼聞久朝之熟語、公程

亦容易而得免其難、可謂久朝者能盡己者也、

○濃州關原之役、家督伯耆守忠充幼少也、故久朝為

軍代而從軍于 義弘公而勞軍務、九月十五日之會

戰盡力抽首功、軍已敗 公歸國、久朝從之路經數

多敵國、其粉骨摧身不可勝云、歸國後家督伯耆守

忠光時長善丸賞其功與感贖及采地也、

久充

千菊 又次郎 右近 紀伊介

○久充之從兄弟伊佐敷左近久理戰死于豊後瀧田、其

子久基幼少而憑家督久慶居知覽、久慶使久充補佐

之、後久基蒙 太守公之命移出水、久充留而領久

基之粮田久慶之所分附、在知覽者為久基之弟、因之子孫皆伊

佐敷氏、故略之、

存祝

祭應大和尚 西福寺九世、

女子

女子

是枝存良房谷山妻、

女子

同氏民部左衛門久英妻、

久通

初久秀 孝右衛門 右近

○寛永十一年甲戌死去、法名少岳淨林居士、

玉林房

○山伏、無子孫、

久資

才次 彦右衛門 狩野助 入道名阿印、

○慶長十一年丙午誕生、

○延寶七年己未七月二十六日死去、歲七十三、法名

心海阿印居士、

久豐

才吉 文右衛門 左近 木工右衛門

○慶長十九年甲寅誕生、

○寬文六年丙午三月八日死去、歲五十三、法名寶林

久珍居士、

○子孫記于他卷、

女子

二方助七郎顯姓之土妻、

○母喜入安房久亮家臣森源右衛門女、

久敬

初久俊 左傳次 勘之丞

○寬永八年辛未六月十一日誕生、母同、

○元祿十三年庚辰十二月十一日死、法名風吟青松居

士、

女子

山下新助谷山妻、後嫁朝隈權之助兼重佐多氏家臣 母

同前、

女子

佐多氏家臣同氏賀左衛門直千妻、母同、

直舊

初久軌 久郷 小千壽 龍右衛門 納右衛門

○三代之家嫡豊後守氏義之七男讚岐久信之一流、

及五世絶後、是歲正徳四年春、宗家久達訴之、

以直舊為後、因攜嫡男直張相統彼家、

○正保元年甲申十二月二十三日誕生、母同前、

直張

初久長 久智 又久仁 小千壽 雲八 六郎左衛門

○延寶四年丙辰十一月十日誕生、母佐多家臣池田七右衛門康信女、

女子

赤崎本右衛門顯娃之七妻

○母佐多家臣大隣後號難波少左衛門經用女、

女子

佐多家之臣安樂休五兼氏妻、母同、

直則

初久武 久命 長千代 浅右衛門 伊織 勘五

右衛門 勘之丞

○寛文三年癸卯五月二十四日誕生、母同、

○受宗家之令實名改直字、冒佐多氏如元、

直供

初久茂 左傳 勘平 大之丞 彦右衛門

○寛文七年丁未二月八日誕生、母同、
○受令改達山、

直經

彦之進

○元祿十五年壬午九月四日誕生、母薩州川邊土逆瀬

川金兵衛安命女、

女子

母同前、

直

小千壽

○寶永七年庚寅四月五日誕生、母同前、

佐多氏庶流

佐多木工右衛門久豐一流系圖

久豐

才吉 文右衛門 左近 木工右衛門

○慶長十九年甲寅誕生、

○寛文六年丙午三月八日死去、歳五十三、法名寶林

久珍居士、

直榮

始久宗 長印 兵十郎 寶右衛門

○寛永十七年庚辰正月十一日誕生、母佐多家之臣永

崎主水左衛門高定女、

女子

佐多家之臣折田山右衛門兼泰妻、母同、

女子

吉田次郎兵衛家臣大山喜兵衛重恭妻、

○母同、

直容

久時 長松 兵部左衛門 早左衛門

○明曆二年丙申三月十日誕生、母同、

○受令辭佐多家號改達山、

長龜

早世、

女子

佐多家之臣江平政右衛門重昌妻、

○母同家臣鮫島圓長坊女、

直貫

久貫 兵助 源兵衛

○元禄元年戊辰八月朔日誕生、母同、

直

兵助

○正徳二年壬辰十二月十四日誕生、母佐多家之臣

鮫島和泉坊宗風女、

直

久門 兵十郎 兵左衛門

○元禄六年癸酉十二月二十二日誕生、母同、

女子

母同前、

直船

久富 長印 木工右衛門 滿右衛門

○寛文二年壬寅五月五日誕生、母薩州河邊土和田六

左衛門女、

○辭佐多家稱號改達山、

直鬮

久季 長菊 仲之丞 兵右衛門

○延寶三年乙卯三月二十五日誕生、母佐多家之臣

松下六右衛門貞常女、

○辭佐多家稱號改達山、

直峻

初久品 兵十郎 高左衛門

○元禄十年丁丑十二月十五日誕生、母佐多家之臣山

之内藤右衛門重弘女、

直曉

左近 仁右衛門

○元禄十四年辛巳正月十一日誕生、母同、

直

弥三郎 三右衛門

○寶永元年甲申十一月十五日誕生、母同、

女子

母同、

女子

母同、

直朗

初久遠 長印 文右衛門

○元禄二年己巳十二月十九日誕生、母佐多家之臣折

田平左衛門兼供女、

女子

母同、

直統

長七

○元祿十一年戊寅九月八日誕生、母同、

直堯

左京 源六兵衛

○寶永元年甲申九月二十一日誕生、母同、

佐多氏庶流
佐多左馬助通久一流系圖

通久

又七郎

左馬助

法號雅樂道永永或作英

○通久者佐多氏四代之家督伯耆守親久之四男也、

○通久之子孫世世不出家督之家、

忠人

或忠仁 又七郎 丹波 法名榮翁忠安、

藤七

○無子孫、

鶴房

○為伊佐敷之養子云云、按伊佐敷系圖不詳其人、

湏忠

瑞應寺在居敷村住持、

女子二人

忠岡

或吉久 又七郎 右衛門 若狹 法名為千幸椿、

忠盈

十郎左衛門 因幡

玄器書記

僧、

○住于中國不詳其國、

忠連

又六 刑部 法名榮九、
女子

久城

治部左衛門 又九郎

○此一流斷絶、

兼久

又七郎 宮内左衛門

忠眞

眞或作實、或忠恒 又九郎

○同氏佐渡光久之養子、

忠益

或平八、按諸系圖或書忠益、或書平八、蓋忠益者平八之實名歟、

女子

同氏筑前延久之妻、

久文

又九郎

○兄兼久之後嗣、

久文

初諸久 又久茂 右衛門 民部 美作 宮内左衛門

○養子、實兼久弟也、

久林

又八郎 神祇祐 加賀 法名加津、

久頼

若狹 加左衛門 入道名祥雲、法名祥雲庵禎居士、

○濃州関原之役、家督忠充幼少也、故使氏族狩野介久朝為軍代久頼從軍、九月十五日早旦、為斥候近

敵軍、敵兵察之發鐵炮、中久賴之頸、久賴不屑之、
靜窺敵軍之體勢告報之、軍已敗而歸國、數年後、
所留于頸之鐵丸破皮出、于今有之、

久延

右近

○同氏少左衛門久江之養子、

久時

休太夫

○母谷山備前女、

○同氏右近久延之養子、

久尙

龜助 休三郎 勘兵衛

○慶長十七年壬子六月十九日誕生於河邊宮村、母同、

○兄久時為同氏右近久延之養子、故久尙相統父家、

○元祿十四年辛巳四月二十二日死、法名天桂智性居

士、

女子

江田良左衛門住休佐多家妻、
之臣

直登

初義住 久致 正次郎 喜左衛門 十郎左衛門

十兵衛

○慶安二年己丑十月三日誕生、母肝付伴兵衛兼屋家

臣中村清左衛門清光女、

○養子、實志志目正右衛門義眞入道桂峯之三男也、

久尙老而無嗣子、家風大衰而將斷、家督久達憐之

使久致為養子育久尙也、實父義眞肝付伴兵衛兼屋

之老臣也、兼屋之三男丹波久利幼少、而當家之家

督又四郎久孝之後嗣、兼屋使義眞補佐久利、久致

從父仕于久利、久利早世、而久達統以義眞有補佐

久利之勞、嘗遇不尋常、因茲使久致統久尙之家為

氏族、是憐久尙之老而無子、且賞義眞之有功於久

利也、

○太守公及嗣君 吉貴公光臨于家督久達之亭時、久致忝拜謁 高顔者數回也、
受令避久忠之字、以直之字為實名、稱號如元、

女子

佐多家之臣佐多六郎左衛門直張妻、

○母同家臣佐多賀左衛門久都女、

直亮

久中 源次 十郎兵衛

○延寶八年庚申八月二十八日誕生、母同、

盛苗

初久輔 源八 弥四郎

○貞享元年甲子十一月八日誕生、母同、

○前田休右衛門盛房肝付氏之老臣也、盛房之養子、與盛苗者素從兄弟也

女子

肝付氏家臣前田四郎右衛門盛命妻、

○母同、

久品

正十郎

○元祿六年癸酉三月二十四日誕生、母同、

○寶永六年己丑七月二十七日死、法名徹心了證居士、

直眺

賀七郎

○寶永三年丙戌十二月二十二日誕生、母佐多家之臣

折田善右衛門兼重女、

女子

○母同、

佐多氏庶流

佐多兵部少輔忠眞一流系圖

忠眞

初久三 又六 兵部少輔 法名龜雲淨鑑、

○母島津相模守運久入道一瓢齋女、

○忠貞者佐多氏八代家督上野介忠成之二男也、

忠增

又六 宮内少輔 越後守

○太守義久攻日州高原城、時忠增時十初陳、七歲

○天正六年戊寅秋、豊後大友氏帥大軍來攻日州高城、

義久公進發而救之、忠增從軍而有太刀初鄉俗先登曰太刀初

功、

○攻肥州八崎城時亦勞軍務、一日中會戰四回、其中

為太刀初二度、

○肥州甲佐・豊州戶次等會戰、共有太刀初之功、

○同十八年庚寅、 関白秀吉公征相州之北條氏、時

嗣君又一郎久保公從軍、撰銳勇士十五騎而從駕、

忠增應其撰、二月二日、發覺府到相州小田原城及

武州忍城等數勞軍務、忝 義弘公賜華翰而勞其勞

時宮内、少輔、且石田治部少輔三成贈酒肴糧米等、慰忠

增之勞者亦不少、

○慶長十四年己酉、 家久公征琉球國、忠增從軍而

渡海、忝 義久公勞其勞賜華翰於忠增與平田太郎

左衛門増宗・伊集院半右衛門、

○傳補敷根・百次・申良等地頭、

○寛永十八年辛巳七月二十一日死去、法名星悟常見、

女子

上井次郎左衛門里兼妻、

政在

加賀守

○鎌田大炊助政次之養子、

○同氏周防介久福家藏系圖曰、有忠貞之二男又八郎

久誠者、為久福之養子後辭去云云、考忠貞流系圖、

忠貞之二男者政在也、無久誠者、蓋政在初為久福

之養子稱又八郎久誠、後辭去為鎌田氏之養子稱加

賀守政在歟、不和其詳、今舉兩說備再考而已、

女子

仁禮佐渡守加世田野間社司也、有武勇妻、之譽、忠增感之以其妹妻之、

○萬治二年己亥六月三日誕生、母仁禮主計頼光女、
○久治實喜入十郎右衛門久則之二男也、久教早世、
故又久治為婿養嗣、

○受宗家之命改實名之字、佐多稱號如元、

直

兵次郎

○元祿十三年庚辰四月九日誕生、母佐多六右衛門忠

貫女、

直

平四郎

○寶永七年庚寅十月七日誕生、母日州飯野土本田半

右衛門女、

直

袈裟二郎

○正徳元年辛卯十二月二十七日誕生、母同、

久景

佐多氏庶流
佐多休兵衛久景一流系圖

休左衛門 休兵衛

○元和六年庚申十一月十六日誕生、他腹、

○久景者忠利之實子也、然以生他腹為忠利之家臣、

而仕于忠利父子、後忠恒無男子養久堅為子、於此

久景不喜仕于養子而去當家、憑南林寺麟匡和尚為

寺家之徒從、子孫皆然、

○萬治二年己亥二月二十五日死、法名花屋常香上座、

直

久紀 休左衛門 休兵衛

○慶安二年己丑十月十二日誕生、

○正徳四年春、至寺門前之輩削除御家氏族之家號法

制也、以故當家之一流自今以後除佐多號、

直

久澄 休右衛門 利兵衛

○承應二年癸巳四月十日誕生、

直東

久東 休三郎 政右衛門

○明曆二年丙申正月二十一日誕生、

久當

權兵衛

○萬治元年戊戌閏十二月十七日誕生、

○寶永二年乙酉七月十日死、年四十八、法名悟

參眞證信士、

直寧

久林 久寧 一之助 休右衛門

○貞享三年丙寅四月十九日誕生、

直能

久能 休之進

○元祿三年庚午十月二十日誕生、

女子

直

政之進

○元祿十二年己卯正月十八日誕生、母薩州大口土椿

松三右衛門義近女、

女子

薩州伊集院士中山與左衛門教綱妻、

佐多氏庶流

佐多式部少輔久治一流系圖

久治

初記久 又十郎 式部少輔

○久治者佐多氏九代之家督伯耆守忠將之二男也、

○慶長二年丁酉七月二十七日死去、法名觀翁道喜居

士、

○後有故家督久慶建小祠於中宮大明神知之側、祭久治之靈崇神俗呼云式、部殿宮、祭祀以十一月十日為祭日也到今不怠也、

久信

源吉 源右衛門

○天正六年戊寅九月八日誕生、母大野右衛門大夫忠康女、

○天正年間、因 台命薩・隅・日三州之諸城主改替其地、此時家督久慶去知覽移河邊、久信等亦從之、其後慶長十五年庚戌、家督忠充之代復本領、時忠充白于 太守公曰、令一族久信地頭代於知覽、忠充可候于覽府、 太守公許之、依之久信從河邊移于知覽、勤之三十年、

○慶長十四年己酉、 太守家久公征琉球國、久信侶同氏越後忠增從軍、國王請降屬和平、唯有大臣舍那者據山中不降、軍將命忠增欲使之降、忠增使久信達和平之旨於舍那、久信深入山中會舍那細陳和

平之事及使舍那全生、於此舍那始悅服降來、以白銀二枚授久信謝其勞矣、已而歸國、 家久賞久信之功、忝口自呼號名源右衛門、

○寬永十九年壬午九月三日死去、歲六十五、法名長傳淨久居士、

○是一流為宗家佐多氏屬士、

幻涼

出家、早世、

女子

上原喜左衛門尚數妻、

○母難波尾張女、

久昌

源十郎 貞左衛門

○慶長十八年癸丑誕生、母同、

○當家十五代家督丹波守久利幼少之際、久昌奉 太守光久公之嚴命輔佐之監家事、久利少而從于嗣

君綱久公赴武城、久昌添之而往還、其勞不少也、

○明曆四年則厲治元戊戌七月朔日死去、歲四十六、法名

祥雲善禎庵主、

久吉

内藏助 少左衛門

○元和四年戊午九月二十五日誕生、母同、

○子孫記于他卷、

久智

源十郎 源右衛門

○寛永十年癸酉誕生、母長井七左衛門顯娃女、

○明曆元年乙未七月二十三日、二十三歲早世、法名

松室祖永居士、

女子

上原源右衛門尙輔妻、母同、

女子

小山十兵衛重政顯娃之妻、母同、

直央

久行 龜松 数馬 貞左衛門

○明曆元年乙未二月十三日誕生、母同、

○兄久智早世、故直央相統家、

○受家嫡之令避久忠之字、以直之字為實名、

直恭

久敦 龜次 源十郎 武兵衛

○延寶八年庚申四月十六日誕生、母伊地知市左衛門

重堅女、

女子

○母同、

女子

○母同、

直高

久備 源之進 傳兵衛

○元祿九年丙子九月十五日誕生、母同、

女子

○母薩州谷山土兒玉仲左衛門利喜女、

直

源十郎

○正徳三年癸巳五月十六日誕生、母同、

久吉

佐多氏庶流
佐多少左衛門久吉一流系圖

内藏助 少左衛門

○元和四年戊午九月二十五日誕生、母難波尾張女、

○寶永三年丙戌六月十七日死、年八十九、法名江雪

宗寒居士、

○此一流為宗家之屬士、

直祐

久章 長菊 内藏助 貞右衛門 刑部左衛門

甚右衛門

○寛永十八年辛巳誕生、母常松與兵衛指宿之士女、

女子

鮫島寶積房山川妻、母同、

直員

久記 長龜 少右衛門 弥兵衛

○明曆二年丙申七月十六日誕生、母同、

直教

久文 丹七 甚兵衛

○貞享二年乙丑四月十一日誕生、母吉峯次郎兵衛

河邊郡女、
山田士女、

女子

○母佐多氏家臣宮原後藤左衛門景東女、

女子

佐多休右衛門直侶田加世妻、田士、母同、

直俱

長三郎 弥右衛門

○元祿十年丁丑正月元日誕生、母同、

直救

初久傳 久包 久枚 長三郎 内藏助 喜六郎

傳右衛門

○延寶二年甲寅四月六日誕生、母田中四郎右衛門多

氏之、
家臣女、

直鄰

久共 吉次郎 清左衛門

○延寶八年庚申六月六日誕生、母同、

香林

獅山

○貞享元年甲子六月二十六日誕生、母同、

○正徳二年壬辰七月三日死、年二十九、法名大室

玉璜、

直

新五郎

○寶永五年戊子正月元日誕生、母都外川休兵衛廣近

佐多、
家臣女、

女子

○母同、

直通

九八郎

○寶永三年丙戌三月十五日誕生、母平田仁右衛門重

清佐多、
家臣女、

直

傳十郎

○寶永五年戊子十月三日誕生、母同、

佐多氏庶流
佐多民部少輔久宗一流系圖

久宗

初宗久 民部少輔

○久宗者佐多氏九代家督伯耆守忠將之三男也、

久英

休作 民部左衛門

○久英為家督太郎次郎久慶之弟別立家、

○子孫略之、

久良

長松 吉左衛門

○天正九年辛巳九月九日誕生、

○兄久英為家督久慶之弟別立家、故久良相統父家、

○慶長二年丁酉春、久良來于覺府訪島津圖書頭忠長

久良者家督常陸介久政之甥、
也、久政之室者忠長之姊也、忠長渥接使之止宿有日、時

忠長有朝鮮之行欲偕久良、久良應其意相從航于朝

鮮、數勞軍務、

○同三年戊戌冬、從忠長歸朝、

○同四年己亥、久良告歸鄉於忠長、忠長曰、卿從于

吾遠渡異域、致身於軍務共嘗艱苦、今不忍相別、

願卿不舍吾長止而不辭勞、則是吾幸也、久良亦感

其眷遇不敢辭、止而終為家臣、忠長與采地百石、

故子孫皆忠長家臣也、

○寬文元年辛丑九月十八日死去、歲八十一、法名籌

山良勝居士、

久辰

初忠辰 長松 五郎右衛門

○慶長八年癸卯誕生、母三葉左近大夫忠繼島津薩摩守義虎弟

女、

○寬永八年辛未十月六日死去、歲二十九、法名快安

全慶居士、

女子

貴島氏阿久妻、母同、

久如

長松 右京 利左衛門

○寬永七年庚午十一月十五日誕生、母阿多孫兵衛忠

紹島津圖書久方家臣女、

○元祿三年庚午二月六日死去、法號鐵山宗心居士、

久金

初久寛 長松 吉左衛門

○慶安二年己丑十一月二十九日誕生、母滿尾太郎兵

衛貞延島津圖書久方家臣女、

○元祿十年丁丑正月四日死去、享年四十九、法名泰

巖昌安居士、

直清

久清 百助 半左衛門 分右衛門 諸兵衛

剃髮如清、

○承應元年壬辰十二月九日誕生、母同、

○受宗家之令避佐多家號及久忠之字、以達山為稱

號、以直之字用實名、

女子

島津圖書久方家臣村原新五兵衛貞猛妻、

○母同家臣岩松次郎兵衛親全女、

直

右京 伴太夫

○元祿十年丁丑十二月五日誕生、母同、

女子

島津圖書久方家臣柿木原一郎右衛門政處妻、

○母同家臣兒島六左衛門高明女、

直啓

初久吉 久敬 長松 助之進 吉左衛門

○延寶七年己未八月二十七日誕生、母同、

○受宗家之令避久忠之字、以直之字為實名、稱號如

元、

久年

新十郎

○貞享三年丙寅正月二十二日誕生、母同、

為僧名慧柏、

直行

長松 甚次郎

○元祿十四年辛巳正月十六日誕生、母島津圖書久方

家臣安行傳右衛門徐昌女、

女子

○母同、

女子

○母同、

佐多氏庶流

佐多民部左衛門久英一流系圖

久英

休作 民部左衛門

○久英者佐多氏十一代家督太郎次郎久慶之弟也、

○天正五年丁丑誕生、實九代家督伯耆守忠將之三男

民部少輔久宗之嫡子也、祖父忠將養之為子、後從

家督久慶移于河邊、久慶與采地而結兄弟約、家臣

谷山喜右衛門・朝隈諸右衛門為使者、因之久英不

繼父家統為久慶之弟別立家、

○文祿元年壬辰、家督太郎次郎久慶從 義弘公師朝

鮮國、陳于加德島、養痾不堪軍務、久慶訴于 太

守公欲使久英為軍代、 公許之、久慶使家臣朝隈

權之助兼元促久英之渡海、久英不日首途、從兵五

十二人、航于朝鮮國拜謁 義弘公 忠恒公、公辱

口自稱名休作、乃代于久慶務軍事、久慶歸國、

○日本諸將帥兵略全羅道俗云、赤國、久英從軍于 義弘公、

衝雪侵寒深入全羅道、諸將圍南門城日夜攻擊、久英有軍勞、

○義弘公 忠恒公在城泗川・新寨之間、使居民千有餘人勤農業、其地去新寨城三里許、久英與川上休右衛門久智奉行之乃守衛其地、一日、義弘公

忠恒公巡見其地一宿於茲、義弘公宿于久智之舍、忠恒公宿于久英之舍、因川上四郎兵衛忠兄之示論進獻酒肴於 兩公、召久英而賜酒盃 嚴旨且懇勸也、厥後島津圖書頭忠長馳書曰、彼地之守衛讓之帖佐之兵士、久英入新寨城而可勤仕、依之與帖佐之兵交替而久英入新寨城、

○慶長三年戊戌十月朔日、明兵二十餘萬逼于新寨城、義弘公 忠恒公大擊大破、久英有首功、

○同年冬、從 兩公歸朝、

○同四年己亥、伊集院源次郎忠真據都城叛、太守公出師攻擊之、家督伯耆守忠充幼少也、久英為軍代將軍師于莊內、攻恒吉・志和池・高城等砦而有

軍勞、

○山田壘陷而後 太守公入兵士守之、久英率兵勤衛

之數日、已而忠真力屈獻城、太守公使諸將入城守之、久英奉 嚴命入都城暫守衛、其後賜暇歸鄉、

○同五年庚子、日州伊東氏家臣稻津掃部助者企一揆、橫行穆佐・倉岡之間數有戰爭、久英馳到彼地抽戰功、

○寬文二年壬寅六月二十六日死去、歲八十六、法名寶山慶珍居士、

久長

右衛門 又左衛門 入道名堪清、

○慶長元年丙申十一月八日誕生、母同氏狩野介久朝女、

○家督伯耆守忠充使久長奉仕 太守公、稱之知覽士矣、

○貞享元年甲子十月十五日死去、歲八十九、法名堪

清良笑居士、

久侶

金兵衛

○為島津中務久茂家臣、子孫皆然、

○子孫記于他卷、

女子

佐土原十左衛門妻、

女子

同氏源右衛門久智妻、後嫁伊藤弥右衛門祐正、

○母田代權兵衛女、

女子

久近妻、母同、

久近

千次郎 軍弥左衛門 良右衛門 右衛門兵衛

六郎兵衛

○正保三年丙戌十月五日誕生、

○塚養嗣、實長井六兵衛利昭顯姓之士之二男也、

○寶永四年丁亥十一月九日死、法名鐵心宗肝居士、

直郷

久寬 虎千代 民部左衛門 作右衛門

○寬文四年甲辰四月五日誕生、母久長女、

○是一流為家嫡佐多氏屬士、

○受家嫡之令避久忠之字、以直之字為實名、

直倫

久包 千次郎 休左衛門 善兵衛

○寬文十二年壬子六月七日誕生、母同、

女子

女子

○母佐多家之臣松清十左衛門重充女、

直了

太郎兵衛

○元祿十三年庚辰九月二十一日誕生、母佐多家之

臣難波善左衛門経利女、

在員

半助

○元禄十五年壬午八月六日誕生、母同、

薩州穎娃土谷口八郎右衛門在宗之養子、

直

後藤兵衛

○正徳二年壬辰二月二十五日誕生、母同、

直侶

久當 源之助 休右衛門

○延寶八年庚申十月二十九日誕生、母同、

女子

○母薩州加世土佐多弥兵衛直員女、

直

金十郎

○正徳二年壬辰十月二十七日誕生、

女子

早世、

直昶

久度 仙千代 休作

○元禄三年庚午七月二十一日誕生、母吉峯仁右衛門

宗庸 河部郡
山田土女、

女子

母同、

女子

母同、

女子

母同、

直

孫七

○正徳元年辛卯九月十三日誕生、母同、

佐多氏庶流
佐多金兵衛久侶一流系圖

久侶

金兵衛

○為島津中務久茂家臣、子孫皆然、

女子

朝隈新右衛門兼信加世妻、田士

久尙

五兵衛

○養子、實桑波田勘左衛門景易之子也、後辭當家去、

忠恒

佐平次 佐左衛門 助左衛門

○養嗣、實兒島四郎右衛門勝貞之二男也、久尙去當

家、故養忠恒為後嗣、

○天和二年壬戌七月二十九日死、法名真空一如居士、

女子

鎌田八右衛門政春妻、

忠清

佐平次 佐左衛門

○元祿四年辛未三月二十四日死、法名實山宗真居士、

久休

平八 助左衛門

○兄忠清早世無嗣子、故久休相統家、

○元祿十年丁丑十二月晦日死、法名柳山道青居士、

直

久昌 久方 弥一 金左衛門

○明曆元年乙未十一月十三日誕生、母禰與左衛門親

治島津新八女、久昌家臣

○養嗣、實井上武兵衛重親島津圖書之二男也、

○受宗家之旨、避佐多家號及久忠之字、以達山為家

號、且以直之字用實名、

直

弥四郎

○元禄十二年己卯十二月二日誕生、母原田宗右衛門

種次川上式部女、

女子

母同、

佐多氏庶流

佐多三郎左衛門忠昌一流系圖

忠昌

彦三郎 三郎左衛門尉

○忠昌之所自出不詳、

信濃守

彦三郎

○山門地頭、

筑前守

彦三郎 藤七左衛門 藤七兵衛

○養子、實同氏德中之嫡子、

中務

○戰死于中郷、

大和守

忠定

新助

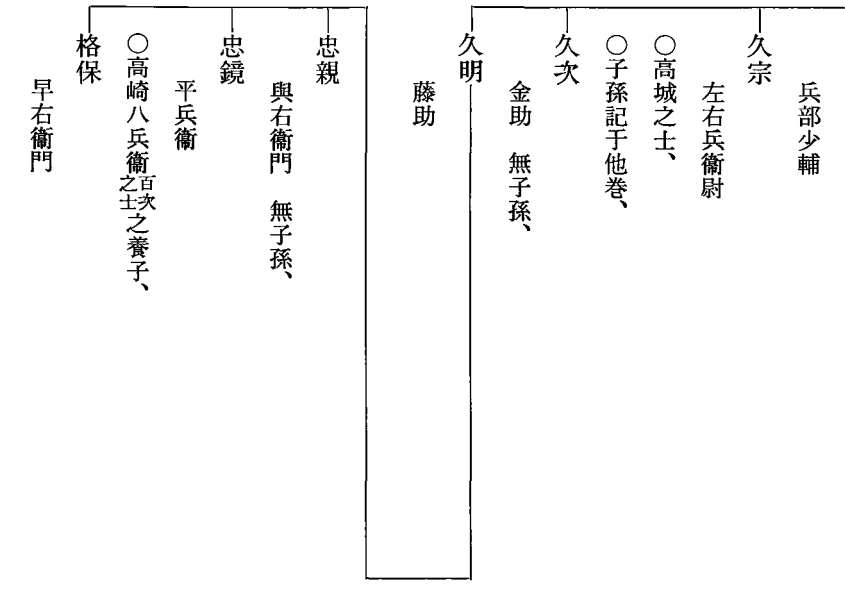
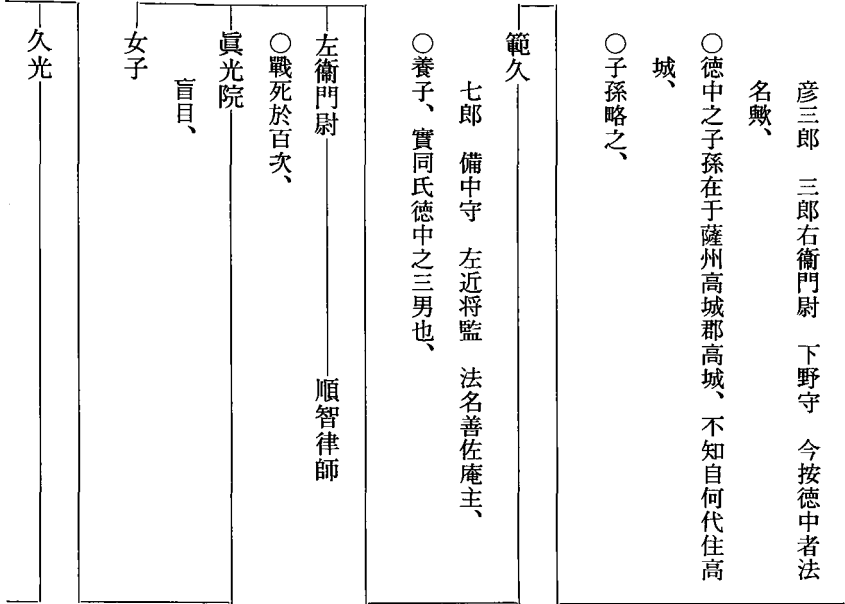
○高城之主頭、○此一流断絶、

華宿

河内守 今按華宿者法名歟、

○華宿之子孫在于薩州百次、不知自何代住百次、

德中



○池之上早右衛門百次之養子、

女子

山口七郎左衛門百次之妻、

女子

民部卿

○奉仕于 太守家久公、

○父久光無男子、故民部卿白 家久公、以其外孫久

逸為父之後嗣、

久逸

七兵衛

○寛永二年乙丑正月十七日誕生、母久光之嫡女、

○養嗣、實山口七郎左衛門之二男也、

○貞享二年乙丑九月二十四日死、享年六十一、法名

霜天白雪居士、

女子

川添太兵衛薩州薩摩郡山田土妻、

○母二木治左衛門百次之妻、

久住

松助 七右衛門

○正保二年乙酉十一月十七日誕生、母同、

○貞享三年丙寅九月二十七日死、行年四十二、法名

安叟良心居士、

久金

助七 兵右衛門

○慶安三年庚寅四月十七日誕生、母同、

○久金父久逸之二男而別立家、後兄久住無嗣子故、

久金讓己家於養子久有、而為兄久住之後嗣、

○子孫記于他卷、

直

初久金 久供 助七 兵右衛門 七右衛門

○久住無男子、故養為子、實弟也、

○應家嫡之令避久忠之字、以直之字為實名、

女子

川添太郎右衛門薩摩郡山田士妻、

○母指宿傳兵衛百次女之士女、

直

久永 兵次郎 七兵衛

○寛文十一年辛亥九月晦日誕生、母白濱仁兵衛薩州樋脇

之士女、

女子

有馬賀藤百次妻之士妻、母同、

直

久主 七之助

○天和三年癸亥七月二十八日誕生、母同、

女子

母薩州隈之城土堀之内善左衛門女、

直

久稠 助七

○元禄十一年丁丑六月七日誕生、母同所士松本嘉左

衛門女、

直

久浮 民部左衛門

○元禄十五年壬午十月二日誕生、母同、

女子

母同、

佐多氏庶流

佐多左右兵衛久宗一流系圖

久宗

左右兵衛尉

○高城之士、

忠幸

軍兵衛

○萬治元年戊戌二月死、法名月憲守潭禪定門、

忠存

早助 無子孫、

○忠存壯年而發病不能勤仕公役、

久長

吉兵衛 六郎右衛門

○寬永三年丙寅四月三日誕生、

○養子、實海野刑部左衛門秀明之嫡子也、忠幸之嫡

子忠存發病不能勤公役、二男忠成早為下毛氏高城之土

之養子、三男七左衛門早世、家風零落而將絕、於

此忠幸養久長為後嗣、久長以己之功再興其家、

忠成

長左衛門

○下毛氏高城之土之養子、後復本氏為忠幸之末子、

久次

七左衛門 早世無子孫、

忠成

長左衛門

○初為下毛氏之養子、後復本氏為忠幸之末子、

○延寶三年癸丑三月二十一日死、法名照山清鏡居士、

○子孫記于他卷、

直

久通 軍助 半七 佐次右衛門

○明曆元年乙未四月十二日誕生、母中村十兵衛高城之土

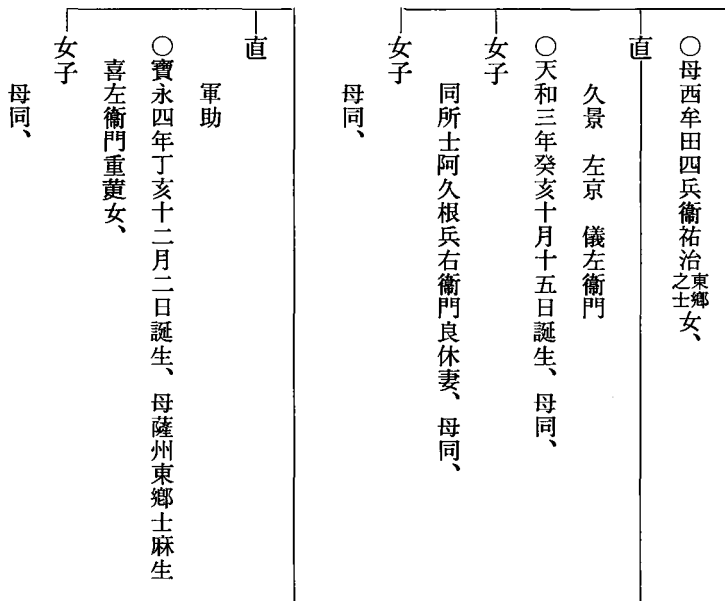
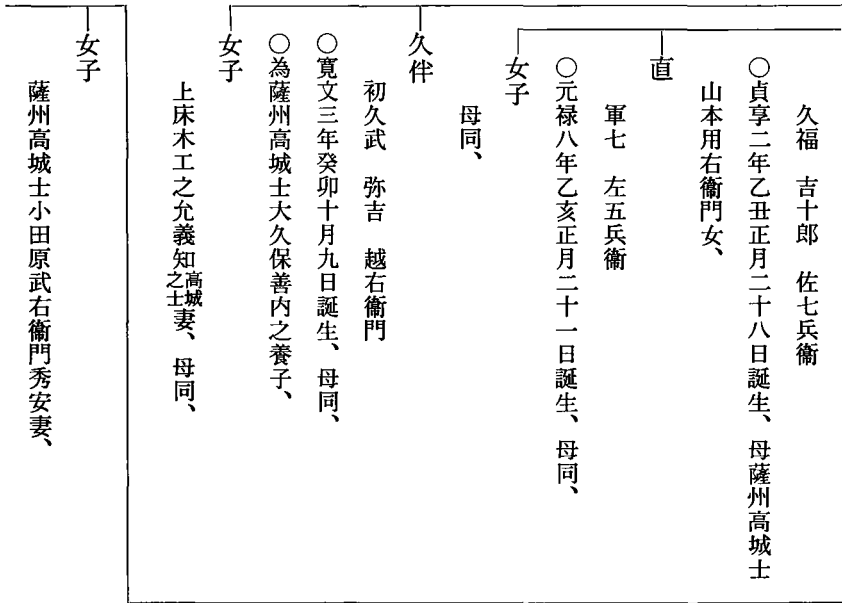
女、

直

初賴清 久治 吉次郎 松浦

○為肱岡宗兵衛賴次高城之土之養子、後辭彼家復本家、

直



佐多氏庶流
佐多長左衛門忠成一流系圖

忠成

長左衛門

○初為下毛氏^{高城之土}之養子、後復本氏為忠幸之末子、

○延寶三年癸丑三月二十一日死、法名照山清鏡居士、

女子

久安

安兵衛

○正保元年甲申四月四日誕生、

○養子、實阿久根助左衛門良廣^{高城之土}之二男、

○寶永七年庚寅二月十五日死、法名孝安常春居士、

直

久鏡 德松 軍兵衛

○寛文四年甲辰二月二十五日誕生、母山本甚左衛門

高城女、
之土

久連

助七

○寛文八年戊申四月二十日誕生、母同、

○正徳三年癸巳二月十七日死、法名一等龍心信士、

女子

薩州高江士樽木太左衛門妻、母同、

直

久郷 甚六

○延寶八年庚申三月十八日誕生、母同、

女子

薩州高江士竹之下新左衛門妻、

○母同所士中村嘉右衛門女、

女子

母同、

直

軍七

○元祿十二年己卯七月二十二日誕生、母同、

佐多氏庶流
佐多兵右衛門久金一流系圖

久金

助七 兵右衛門

○慶安三年庚寅四月十七日誕生、母同、

○久金父久逸之二男而別立家、後兄久住無嗣子故、

久金讓己家於養子久有、而為兄久住之後嗣、

直

久有 助之進

○寛文元年辛丑十二月二十七日誕生、

○養子、實佐久間吉右衛門百次之士次之三男也、久金為兄

久住之後嗣、故養久有為己之後嗣、

女子

薩州隈之城士國分勘右衛門妻、

○母山内六兵衛義陳百次之士次女、

女子

母同、

直

久門 權右衛門

○元祿十年丁丑十二月二十四日誕生、母同、

直

久流 銅太夫

○元祿十六年癸未二月五日誕生、母同、

佐多氏庶流

佐多下野守德中一流系圖

德中

彦三郎 三郎右衛門 下野守 今按德中者法名

歟、

○德中之子孫在于薩州高城郡高城、不知自何代住高城、

藤七左衛門尉

筑前守

○同氏信濃守之養子、

次郎左衛門尉

小三郎

範久

七郎 備中守

○同氏華宿之養子、

下野守

源四郎 三郎右衛門尉

○此一流斷絶、

須佐

保福寺住持、

女子

新納近江守忠明室、

梅屋

玉泉寺住持、

女子

下野守

信濃守

山城守

右衛門尉

次郎丸

○無子孫、

忠昌

小三郎 五兵衛

○母濱田善右衛門高城女、

○寛文二年壬寅十月七日死、法名暑珍上座、

忠銀

笹右衛門 母同、

○濱田氏高城之士之養子、後復本氏為右衛門尉之末子、

忠信

助七 母同、

○早世無子孫、

女子

宮路清左衛門薩州東郷之士妻、母同、

久次

休藏

忠銀

笹右衛門

○初為濱田氏之養子、後復本氏為右衛門尉之末子、

○延寶七年己未七月七日死、法名端山道嘉居士、

直

初久世 以端 小三郎

○寛文八年戊申二月二十九日誕生于武州江戸、母千

葉嘉右衛門常安下野國人女、

○伯父忠昌無嗣子故久世為之後嗣、不及立忠銀之後、

直

初久世 以端 小三郎

○養子、實忠銀之子也、

佐多氏庶流

佐多宮内少輔久友一流系圖

久友

宮内少輔

○久友之所自出不詳、

○傳稱世世属于薩州家居于出水、後自殺事不詳、法名

即應是心居士、

久昌

參河守

○兄久友之後嗣、

久元

源左衛門

○秀吉公征西之時、兄久昌守水引城薩州、丁獻城退去、

以久元為質、久元從 高駕上京終死于彼地、

久次

覺左衛門 無子孫、

久昌

參河守 法名久山知昌居士、

○兄久友無嗣子、故以久昌為後嗣、

○薩州家攻泷谷氏、久昌將師抽戰功、依之永祿年間、

為水引城主將士卒移居之、

○天正十五年丁亥、 太閤秀吉公征西、久昌素守水

引城、及又太郎忠辰之降獻城退去、以弟久元為質

蟄居于川底村水引、後為水引之士、

女子

柏木源太兵衛重智高尾妻、野土妻、

忠職

式部少輔

○元和八年壬戌二月十三日死、法名貫翁道一居士、

才翁禪師

○長島長光寺住持、

久秀

貞右衛門

○萬治二年己亥二月十三日死、法名蘭室常本居士、

吉信

孫左衛門

○大久保孫左衛門吉房水引養子、

久盛

源助

○元和九年癸亥八月四日誕生、

○天和元年辛酉九月十四日死去、享年五十九、法名

照山心覚居士、

女子

東郷七郎左衛門重信申木妻、野士、

久信

太左衛門

○承應三年甲午三月一日早世、法名一道圓無信士、

貞左衛門

○幼而喪母、久秀家貧而不能育之、投之高江郷農家、

故成長於其家、終農家之子、

久重

彦千代 後為僧名暁春房政仁、

○正保四年丁亥十月二十五日誕生、母久秀女、

○久重實東郷七郎左衛門重信申木嫡子也、野士、久盛無男

子、故養為子、

○久盛晚年生久明・久居等、於此久重時十五歲讓家於久

明、而自為僧、

直明

久明 龜千代 貞右衛門

○明曆三年丁酉四月六日誕生、母薩州出水土堀茂兵

衛女、

直居

久居 弥三郎 源助

女子

成枝吉右衛門高城郡高城士妻、

直

源之丞

○元祿十二年己卯十一月二十七日誕生、母薩州水引

士二之方主膳女、

女子

薩州水引社人上井宗兵衛妻、

直

權六 助兵衛

○元祿七年甲戌十二月十四日誕生、母水引泰平寺門
前者九兵衛女、

文
書
目
錄

例言

- 一 本巻に収められた「新編島津氏世録支流系図」中の文書の全部を、底本の配列に従い、通し番号を付して収録したものである。
- 一 文書は、番号のほか、年月日、文書名を記載した。
- 一 底本にある補筆の年紀については、「**レ**」又は「**リ**」を付し、編者の注には（**レ**）を付した。
- 一 月の異称は数字に改めたが、正月、朔日、晦日などはそのまま残した。

新編島津氏世錄支流系圖

番号 年 月 日 文 書 名

川上氏一流 第一

川上氏正統系圖第一

- 一 建武三年十二月廿三日 足利直義下文
- 二 建武四年 三月 六日 延時信忠軍忠狀
- 三 建武四年 四月 日 本田久兼軍忠狀
- 四 建武四年 五月十七日 足利直義御教書
- 五 建武四年 十月 二日 川上頼久書狀
- 六 建武四年十一月 日 宮里種正軍忠狀
- 七 建武四年十一月 日 延時法仏軍忠狀
- 八 貞和六年十二月 廿日 足利直冬軍勢催促狀
- 九 文和元年十二月十二日 足利尊氏下文
- 一〇 文和元年十二月廿四日 沙弥某施行狀
- 一一 十一月廿二日 川上慰政久書狀

番号 年 月 日 文 書 名

川上氏一流 第二

川上庶流因幡守忠村一流系圖

川上氏支流系圖第三

- 川上氏一流 第三
- 川上庶流十郎左衛門尉義久入道道安一流系圖
- 一一 足利義尙贊
- 一二 島津又三郎久立書狀
- 一三 島津立久書狀
- 一四 七月十八日 島津立久書狀
- 一五 九月 廿日 島津立久書狀
- 一六 八月 六日 島津立久書狀
- 一七 九月廿七日 島津立久書狀
- 一八 十二月 四日 島津立久書狀
- 一九 十二月十九日 島津立久書狀

- 二〇 九月十九日 島津久逸書狀
- 二一 正月 十日 島津国久書狀
- 二二 三月 五日 島津国久書狀
- 二三 七月 三日 島津公久忠書狀弘
- 二四 文明十五年八月廿一日 笠懸日記
- 二五 島津忠昌書狀
- 二六 二月廿九日 島津忠昌書狀
- 二七 十月 十日 島津忠昌書狀
- 二八 十一月 二日 島津忠兼勝書狀久
- 二九 十一月廿五日 島津忠兼勝書狀久
- 三〇 天文九年十一月廿六日 島津貴久起請文
- 三一 天文十年 二月廿五日 川上受久起請文
- 三二 九月 七日 島津伯圃貫書狀久
- 三三 永祿五年 五月 吉日 島津忠平義起請文久
- 三四 永祿九年 八月 六日 島津義久起請文
- 三五 元龜二年 九月 吉日 島津忠平義起請文弘
- 三六 天正二年 六月十二日 河上經久起請文

三七

二月十八日

島津龍伯義書狀久

三八

『天正十五年』十月廿二日

島津龍伯義書狀久

三九

島津龍伯義書狀久

四〇

『天正十七年』二月廿三日

島津義弘書狀

四一

天正十九年二月十四日

島津久保起請文

川上氏一流 第四

川上氏庶流
川上式部少輔辰久一流系圖

川上氏庶流
川上出羽忠光一流系圖

川上氏庶流
川上六郎兵衛久直系圖

川上氏一流 第五

川上氏庶流
川上左衛門久利一流系圖

川上氏二男
川上瀨兵衛久通一流系圖

川上氏三男
川上長門久利一流系圖

川上氏庶流
小原參河久昭一流系圖

川上氏庶流
山口氏一流系圖

不知所自出
川上志摩助久門一流系圖

北郷氏一流 第一

- 四二 文和四年 三月 日 島津氏久代頼兼目安状
- 四三 文和三年 六月 廿日 島津師久進状
- 四四 文和三年 六月 日 知色城攻味方交名注文
- 四五 文和四年十一月 五日 島津師久軍忠状
- 四六 文和四年十二月廿八日 足利尊氏御教書
- 四七 討死人文名注文
- 四八 延文四年 四月 五日 島津道鑑貞讓状
- 四九 應永十七年六月廿九日 進上物注文
- 五〇 四月十五日 赤松滿政副状
- 五一 拝領物目錄
- 五二 大永八年 六月 廿日 島津勝久宛行状
- 五三 七月廿五日 伊東義祐書状
- 五四 六月 廿日 島津貴久書状
- 五五 天文十七年六月十一日 島津貴久起請文
- 五六 天文十八年 十二月廿九日 肝付兼盛起請文
- 五七 天文廿一年十二月四日 島津貴久外六名連署起請文
- 五八 七月 日 伊東祐修書状
- 五九 九月 四日 島津勝久書状
- 六〇 天文十八年十二月七日 祁答院良重起請文
- 六一 天文十九年 二月廿日 入来院重嗣起請文
- 六二 永祿五年 六月廿一日 伊集院孤舟忠外五名連署起請文
- 六三 永祿五年 八月 吉日 相良頼房起請文
- 六四 三月十三日 近衛前久書状
- 六五 永祿七年十一月十九日 島津義久起請文
- 六六 永祿十一年六月十五日 島津義久起請文
- 六七 十月 二日 島津義久書状
- 六八 九月 七日 相良頼房書状
- 六九 天正二年 九月 十日 島津義久起請文
- 七〇 天正二年 九月 十日 川上忠克外三名連署起請文
- 七一 天正二年 九月十一日 島津忠平義弘起請文
- 七二 四月 七日 近衛前久書状
- 七三 天正六年 七月 廿日 島津義久起請文
- 七四 十月十五日 島津義久書状

- | | | | | | |
|----|------------|---------------------------|----------|-----------------|------------------------------------|
| 七五 | 六月十八日 | 飛鳥井雅繼書狀 | 九二 | 八月十六日 | 近衛龜山 <small>前久</small> 書狀 |
| 七六 | 天正七年十二月廿三日 | 島津義久宛行狀 | 九三 | 八月 廿日 | 青蓮院尊朝法親王書狀 |
| 七七 | 二月 廿日 | 近衛前久書狀 | 九四 | 八月 廿日 | 島井小路經孝書狀 |
| 七八 | 五月十六日 | 島津義久書狀 | 北鄉氏一流 第二 | | |
| 七九 | 五月廿六日 | 豊臣秀吉朱印狀 | 九五 | 天正六年 八月 三日 | 島津義久起請文 |
| 八〇 | 六月十五日 | 羽柴秀長書狀 | 九六 | 天正六年十一月十三日 | 島津義久起請文 |
| 八一 | 七月 五日 | 羽柴秀長書狀 | 九七 | 天正十六年
十二月十二日 | 島津龍伯 <small>義久</small> 起請文 |
| 八二 | 十月廿一日 | 豊臣秀吉朱印狀 | 九八 | 正月十四日 | 豊臣秀吉朱印狀 |
| 八三 | 二月十一日 | 豊臣秀吉朱印狀 | 九九 | 十一月 八日 | 豊臣秀吉朱印狀 |
| 八四 | 天正十六年二月 三日 | 島津義弘起請文 | 一〇〇 | 十二月十八日 | 豊臣秀吉朱印狀 |
| 八五 | 二月十一日 | 島津義久書狀 | 一〇一 | 文祿四年 七月 五日 | 島津龍伯 <small>義久</small> 署書狀
同義弘連 |
| 八六 | 十二月十二日 | 島津龍伯 <small>義久</small> 書狀 | 一〇二 | 慶長三年 十月 一日 | 泗川表討捕首注文 |
| 八七 | 十一月 六日 | 豊臣秀吉朱印狀 | 一〇三 | 九月十五日 | 安宅秀安書狀 |
| 八八 | 十一月 六日 | 豊臣秀吉朱印狀 | 一〇四 | 二月 四日 | 島津龍伯 <small>義久</small> 書狀 |
| 八九 | 七月十九日 | 島津龍伯 <small>義久</small> 書狀 | 一〇五 | 四月廿八日 | 島津龍伯 <small>義久</small> 書狀 |
| 九〇 | 四月 一日 | 豊臣秀吉朱印狀 | 一〇六 | 慶長四年 九月十三日 | 島津忠恒 <small>家久</small> 書狀 |
| 九一 | 四月十三日 | 豊臣秀次朱印狀 | 一〇七 | 慶長五年十一月廿三日 | 島津忠恒 <small>家久</small> 宛行狀 |

一〇八	十月十九日	長倉兵国書状	一二五	六月十五日	酒井忠吉書状
一〇九	十二月四日	島津忠恒 <small>家久</small> 書状	一二六	四月十二日	島津家久書状
一一〇	慶長十一年十一月晦日	島津家久感状	一二七	九月十五日	島津家久書状
一一一	七月 五日	島津家久書状	一二八	十二月 三日	松平定行書状
一二二	六月 二日	島津家久書状	一二九	十二月廿三日	島津久元・川上久国連 署書状
一二三	十二月十四日	本多正純書状	一三〇	正月十五日	島津光久書状
一二四	五月十五日	島津惟新 <small>弘義</small> 書状	一三一	八月 三日	島津光久書状
一二五	元和二年 七月 三日	酒井忠利外三名連署達 書	一三二	四月十九日	島津光久書状
一二六	十二月廿一日	酒井忠世書状	一三三	四月十九日	島津光久書状
一二七	十二月廿一日	土井利勝書状	一三四	七月 二日	松平信綱書状
一二八	五月 四日	酒井忠利書状	一三五	七月 二日	松平定綱書状
一二九	五月 四日	土井利勝書状	一三六	七月 二日	酒井忠勝書状
一三〇	五月 四日	朝倉宣正書状	一三七		近衛前久極書
一二一	八月 八日	島津家久書状	一三八	元禄十五年六月 日	近衛家熙極書
一二二	七月 六日	島津家久書状	一三九	寛永十七年四月 五日	伊勢貞昌覺書写
一二三	八月廿六日	島津光久書状	一四〇	正徳三年 三月廿五日	肝付兼柄名字状
一二四	正月 六日	酒井忠利書状	一四一	正徳三年 三月廿五日	相良長規名字状

一四二 三月 山口某^{五太}達書

一四三 正德三年 三月廿五日 相良長規名字狀

一四四 三月 山口某^{五太}達書

一四五 正德三年 三月廿五日 相良長規名字狀

一四六 三月 山口某^{五太}達書

北鄉氏一流 第三

〔左衛門尉時久之三男三久系圖〕

一四七 文祿四年 七月 五日 島津竜伯^義・同義弘連署証狀

一四八 寬永廿一年 十一月十三日 島津光久補任狀

一四九 寬文六年 八月十七日 島津光久袖判条書

一五〇 寬文七年 正月 三日 島津光久仰書

一五一 正月 三日 島津光久仰書

一五二 七月 五日 島津光久口上書

〔左衛門尉時久之四男久村系圖〕

〔左衛門尉時久之四男久村系圖〕

北鄉氏一流 第四

〔讀岐守敏久之三男近久系圖〕

〔中務少輔知久之二男信久系圖〕

〔讀岐守持久之二男用棟系圖〕

〔讀岐守持久之三男久直系圖〕

一五三 十一月廿五日 島津武久^忠書狀

〔讀岐守持久之四男辰久系圖〕

一五四 『大永六年』九月 四日 島津勝久書狀

〔讀岐守持久之五男常久系圖〕

〔讀岐守敏久之二男忠榮系圖〕

〔讀岐守敏久之三男近久系圖〕

北鄉氏庶流系圖〔讀岐守敏久之四男久隆系圖〕

一五五 三月 五日 小笠原光清書狀

一五六 十月 廿日 島津忠治書狀

一五七 九月 四日 島津勝久書狀

一五八 七月十五日 島津勝久書狀

一五九 九月十六日 島津忠平^義書狀

一六〇 五月 六日 島津忠恒^家書狀

一六一 慶長五年十一月 廿日 平田增宗・謙田政近連署宛行狀

一六二 慶長五年十一月 廿日 島津忠長外三名連署新
知目錄

一六三 慶長五年 十月 九日 島津惟新弘義感狀

(續岐守忠相之二男忠孝系圖)

(續岐守忠相之三男久重系圖)

一六四 天文十二年五月廿七日 北郷忠親宛行狀

(尾張守忠親之二男久通系圖)

石坂氏一流

石坂氏系圖

若狹島津一流

若狹島津系圖

一六五 大永八年 八月十九日 内藤光広書下

一六六 某覚書

越前島津一流

越前島津系圖

一六七 七月廿七日 北条泰時書狀

一六八 文曆二年 八月廿八日 関東下知狀

一六九 島津忠景和歌

一四〇 正応四年十二月 七日 將軍家政所下文

一七一 建武三年 十月 日 下指保忠政軍忠狀

一七二 弘安六年 八月 日 沙弥行照文書紛失狀

一七三 元弘三年 五月廿八日 足利高氏下文

一七四 元弘三年十一月 八日 後醍醐天皇綸旨

一七五 『元弘三』 四月廿七日 足利高氏書狀

一七六 建武三年 二月 五日 足利尊氏軍勢催促狀

一七七 建武三年 三月十五日 石橋和義軍勢催促狀

一七八 建武三年 三月 日 島津忠兼軍忠狀

一七九 建武三年 五月十九日 島津忠兼軍忠狀

一八〇 建武三年 七月 十日 足利尊氏感狀

一八一 建武三年 七月廿七日 島津忠兼軍忠狀

一八二 建武三年 十月 日 島津忠兼軍忠狀

一八三 建延四年 四月十五日 畠山高国感狀

一八四 建武四年 九月廿一日 島津忠兼軍忠狀

一八五 建武五年 二月 七日 赤松円心則孝文

一八六 建武五年 二月廿三日 島津忠兼軍忠狀

- 一八七 建武五年 六月 日 島津忠兼軍忠狀
- 一八八 建武五年閏七月廿九日 島津忠兼軍忠狀
- 一八九 建武五年 八月十三日 赤松円心則拳狀
- 一九〇 建武五年 八月廿一日 赤松円心則書下
- 一九一 曆応元年十一月廿四日 赤松円心則書下
- 一九二 曆応二年 十月 九日 島津忠兼軍忠狀
- 一九三 十一月十三日 石塔頼房拳狀
- 一九四 曆応二年十一月十三日 赤松円心則拳狀
- 一九五 貞和二年 六月廿一日 足利尊氏下文
- 一九六 貞和五年 七月 二日 足利尊氏下文
- 一九六 貞和五年 八月 八日 上杉朝房奉書
- 一九八 觀応二年 正月廿四日 足利尊氏下文
- 一九九 正平七年 正月 十日 足利尊氏下文
- 二〇〇 觀心三年 三月十二日 足利尊氏官途拳狀
- 二〇一 『文和三年』 六月廿四日 足利尊氏御教書
- 二〇二 『文和三年』 六月廿四日 足利尊氏御教書
- 二〇三 文和三年 八月十二日 河越直重施行狀
- 二〇四 『文和三』 八月廿四日 足利尊氏書狀
- 二〇五 九月十二日 足利義詮書狀
- 二〇六 文和三年 十月廿七日 河越直重請文
- 二〇七 文和三年十一月 廿日 河越直重請文
- 二〇八 文和四年 二月廿五日 島津忠兼外五十三名一揆契約狀
- 二〇九 建武三年 六月 八日 足利尊氏軍勢催促狀
- 二一〇 觀心二年 二月十六日 足利尊氏下文
- 二一一 觀応二年 十月 五日 足利尊氏感狀
- 二一二 觀応三年 三月十二日 足利尊氏官途拳狀
- 二一三 正平六年十一月 十日 足利義詮感狀
- 二一四 永和元年 九月廿二日 足利將軍家御教書
- 二一五 永和元年 九月廿二日 足利將軍家御教書
- 二一六 永和元年 九月廿二日 足利將軍家御教書
- 二一七 康曆元年 四月 日 帶刀景忠軍忠狀
- 二一八 応永十九年 十一月十二日 清閑寺家俊奉口宣案
- 二一九 寛正二年 五月十八日 町廣光奉口宣案
- 二二〇 文明三年十一月 十日 足利義政御判御教書

二二一 文明三年十一月 十日 室町幕府奉行人連署奉書

二二三 文明三年十一月廿七日 室町幕府奉行人連署奉書

二二三 文明三年十二月 廿日 室町幕府奉行人連署奉書

二二四 文明四年 廿六日 室町幕府奉行人連署奉書

二二五 明応八年 六月廿七日 室町幕府奉行人連署奉書

知覽氏一流

島津筑後久龍家臣
越前島津庶流知覽氏嫡流系圖

二二六 正徳三年 三月廿五日 相良長規取次名字狀

二二七 山口某五太夫達書

藤州田布施士
種子島彈正久基家臣越前島津氏族知覽氏庶流系圖

越前島津氏族知覽氏庶流系圖
種子島三郎次郎家臣知覽氏系圖

田布施之士知覽氏系圖

二二八 知覽忠秀和歌

宇宿氏一流

宇宿氏系圖

不知所自出宇宿彦五郎久時一流系圖

宮里氏一流

宮里氏系圖

山田氏一流 第一

山田氏系圖 第一

二二九 文永二年 九月 廿日 島津道_忠時讓狀

二三〇 文永三年 二月廿七日 島津道_忠時讓狀

二三一 文永九年 四月十七日 島津道_忠時讓狀

二三二 弘安元年 七月 卅日 關東御教書

二二三 『弘安三』 七月廿一日 島津久經書狀

二三四 文永十二年二月十七日 山田忠実讓狀

二三五 島津久時_久申狀

二三六 弘安二年 五月 九日 關東御教書

二三七 弘安二年十二月十九日 關東御教書

二三八 弘安三年十二月十九日 關東御教書

二三九 弘安九年 六月十一日 關東御教書

二四〇 文永十二年二月十七日 山田忠真讓狀

二四八 弘長元年 十月廿八日 沙弥寂證田地壳券

二四二	建治元年	十月 三日	ふつけう讓狀	二五七	元享三年	三月 四日	穎娃久純請文
二四三	建治二年	九月十三日	山田忠真讓狀	二五八	元享三年	五月 三日	渋谷為重請文
二四四	弘安十年	十月 三日	関東下知狀	二五九	元享三年	六月十四日	莫祢成貞書狀
二四五	正応四年	三月十三日	伊集院道智 <small>久</small> 親 <small>親</small> 文書預狀	二六〇	元享三年	七月廿五日	谷山覚信請文
二四六	永仁五年	七月 五日	関東御教書	二六一	『元享三』	八月 四日	島津忠宗書狀
二四七	永仁五年	八月 晦日	島津忠宗書狀	二六二		九月十一日	酒匂本性書狀
二四八	正安二年	七月 二日	鎮西下知狀	二六三	元享三年	九月廿八日	渋谷重基請文
二四九	正安二年十一月	三日	ふちへのうちののよ契狀	二六四		九月 卅日	沙弥津性書狀
二五〇	正安二年十二月	三日	ふつけう売券	二六五	元享四年	三月 廿日	鎮西下知狀
二五一	正安四年	八月廿七日	山田道慶 <small>宗久</small> 文書目錄	二六六	元享四年	六月 日	谷山覚信代俊忠陳狀
山田氏一流 第二				二六七		七月 二日	藤原忠幸書狀
山田系圖第二				二六八	元享四年十一月十五日		平為忠問狀
二五二	正和四年	七月十六日	掃部助政頭書下	二六九	元享四年十一月廿九日		鎮西下知狀
二五三	元享二年十一月	日	山田道慶 <small>宗久</small> 申狀	二七〇	正中二年	六月 一日	山田道慶 <small>宗久</small> 和与狀
二五四	元享二年十一月廿五日		鎮西御教書	二七一	正中二年	六月 一日	谷山覚信和与狀
二五五		十二月十一日	酒匂本性書狀	二七二	正中二年	七月 三日	鎮西御教書
二五六	元享二年十二月	日	谷山覚信代俊忠重申狀	二七三	正中二年	十月 十日	鎮西下知狀

- 二七四 嘉曆二年十二月十六日 鎮西御教書
- 二七五 嘉曆四年 正月 日 山田道慶宗久重申狀
- 二七六 嘉曆四年 三月 五日 鎮西御教書
- 二七七 元德元年十二月 五日 鎮西御教書
- 二七八 元德元年十二月 九日 沙弥道覚代重俊和与狀
- 二七九 元德元年十二月廿五日 鎮西下知狀
- 二八〇 元德二年 三月十四日 伊集院助久請文
- 二八一 元德二年十一月十六日 鎮西下知狀
- 二八二 元德二年十二月 十日 鎮西御教書
- 二八三 元德三年 正月 八日 日置伊作庄文書請取狀
- 二八四 正慶元年十二月 十日 鎮西下知狀
- 二八五 正慶元年十二月 十日 鎮西御教書
- 二八六 正慶元年十二月 十日 鎮西御教書
- 二八七 正慶二年 正月 廿日 鎮西御教書
- 二八八 正慶二年閏二月 三日 鎮西御教書
- 二八九 正慶二年閏二月 三日 鎮西御教書
- 二九〇 元弘三年 六月 八日 大友具簡貞宗書下
- 二九一 元弘三年 七月 日 山田道慶宗久申狀
- 二九二 元弘三年 七月 十日 山田道慶宗久着到狀
- 二九三 元弘三年 八月 廿日 山田道慶宗久着到狀
- 二九四 建武元年 六月 日 山田道慶宗久申狀
- 二九五 建武元年 六月十七日 谷山覚信代教信請文
- 二九六 建武元年十一月廿六日 後醍醐天皇綸旨
- 二九七 建武二年 二月 日 山田道慶宗久申狀
- 二九八 建武三年 三月 廿日 山田道慶宗久軍忠狀
- 二九九 建武三年 三月 日 山田道慶宗久軍忠狀
- 三〇〇 建武三年 三月廿四日 島津道鑑貞拳狀
- 三〇一 大窪明賢陳狀
- 三〇二 建武六年(元久) 七月廿一日 雜訴決斷所牒
- 三〇三 康永四年 十月廿一日 たうきん避狀
- 三〇四 建治二年 九月十三日 山田忠真讓狀
- 三〇五 正応二年 八月 二日 關東下知狀
- 三〇六 永正十六年十二月吉日 山田忠俊寄進狀

山田氏一流 第三

山田氏系圖第三

- | | | | | | | |
|-----|---------|-------|-----------------------------|-----|------------|---|
| 三〇七 | 正中二年 | 四月十九日 | 山田道慶 <small>宗久</small> 讓狀 | 三二二 | 元德二年後六月廿五日 | 鮫島蓮道請文 |
| 三〇八 | 正中二年 | 四月十九日 | 山田道慶 <small>宗久</small> 讓狀 | 三二三 | 元德二年 七月 五日 | 渋谷元祐請文 |
| 三〇九 | 正中二年 | 四月十九日 | 山田道慶 <small>宗久</small> 置文 | 三二四 | 元德二年十一月 日 | 谷山覚信代教信重申狀 |
| 三一〇 | 正中三年 | 二月十九日 | 山田道慶 <small>宗久</small> 讓狀 | 三二五 | 正慶元年十二月 五日 | 鎮西下知狀 |
| 三一 | | 二月廿五日 | 谷山覚信書狀 | 三二六 | 元弘三年 六月廿四日 | 山田道慶 <small>宗久</small> 置文 |
| 三一二 | | | 谷山覚信文書渡狀 | 三二七 | 元弘三年 七月 日 | 山田忠能 <small>忠經</small> ・同亀三郎
山友申狀 <small>久</small> |
| 三一三 | 嘉曆四年 | 五月廿三日 | 鎮西御教書 | 三二八 | 元弘三年 八月 五日 | 後醍醐天皇編旨 |
| 三一四 | 嘉曆四年 | 六月 日 | 山田諸三郎 <small>忠經</small> 重申狀 | 三二九 | 建武元年 六月十七日 | 谷山覚信代教信請文 |
| 三一五 | 嘉曆四年 | 七月廿七日 | 鎮西御教書 | 三三〇 | 建武元年 九月廿九日 | 雜訴決斷所下文 |
| 三一六 | 嘉曆四年 | 九月廿五日 | 和泉実忠請文 | 三三一 | 建武元年十一月十一日 | 雜訴決斷所牒 |
| 三一七 | | 七月 一日 | 谷山覚信請文 | 三三二 | 八月 九日 | 僧仁卷書狀 |
| 三一八 | 嘉曆四年 | 九月廿七日 | 平忠世請文 | 三三三 | 建武元年十一月廿七日 | 成阿奉書 |
| 三一九 | 元德二年 | 四月 廿日 | 鎮西御教書 | 三三四 | 建武二年 三月 日 | 山田忠能 <small>忠經</small> 重申狀 |
| 三二〇 | 元德二年閏六月 | 二日 | 谷山覚信請文 | 三三五 | 建武三年 三月 五日 | 山田忠能 <small>忠經</small> 着到狀 |
| 三二一 | 元德二年後六月 | 八日 | 渋谷定円請文 | 三三六 | 建武三年 三月 五日 | 島津道鑑 <small>貞久</small> 拳狀 |
| | | | | 三三七 | 建武三年 三月廿八日 | 足利尊氏御教書 |
| | | | | 三三八 | 建武三年 三月廿八日 | 足利尊氏奉行人連署奉書 |

三三九 建武三年 三月廿八日 足利尊氏奉行人連署奉書

三四〇 建武三年 六月 日 山田忠能忠經軍忠狀

三四一 建武三年 六月 日 山田忠能忠經申狀

三四二 建武四年 正月 日 山田忠能忠經申狀

三四三 建武四年 三月 日 山田忠能忠經申狀

三四四 建武四年 三月 日 山田忠能忠經申狀

三四五 建武四年 五月十八日 足利直義御教書

三四六 建武四年十一月廿九日 足利直義御教書

三四七 建武四年十一月廿九日 足利直義御教書

三四八 建武四年十一月廿九日 足利直義御教書

三四八 閏四月 四日 島津道惠宗久書狀

山田氏一流 第四

山田氏系圖第四

三四九 貞和六年 九月廿二日 足利直冬軍勢催促狀

三五〇 貞和七年 四月 日 山田忠經申狀

三五一 觀応二年 六月十三日 足利直冬下文

三五二 觀応二年 七月廿八日 足利直冬軍勢催促狀

三五三 三月 八日 村田經安書狀

三五四 正平十三年五月 一日 島津氏久宛行狀

三五五 正平十三年七月 一日 島津氏久安堵狀

三五六 応安七年 五月廿二日 今川了俊貞拳狀

三五七 応安八年 五月 十日 島津氏久拳狀

三五八 永和元年 七月十八日 今川了俊世書狀

三五九 至德元年十一月十六日 犬追物手組

三六〇 建武四年十一月 三日 山田龜三郎久友軍忠狀

三六一 建武四年十一月 三日 山田龜三郎久友軍忠狀

三六二 觀応二年 六月十三日 足利直冬下文

三六三 応安六年 二月 七日 今川了俊貞感狀

三六四 明德二年 三月 二日 山田友久請文

三六五 応永六年 三月廿一日 山田友久寄進狀

三六六 貞治六年 二月十八日 山田忠經讓狀

三六七 応安七年 五月廿二日 今川了俊貞拳狀

三六八 明德四年 六月 日 島津元久段錢請文

三六九 『應永八年』 九月十一日 村田經安書狀

三七〇 応永十六年三月 二日 山田玄威久外八名連署契狀

三七一 応永十六年七月 七日 山田玄威久起請文
 三七二 応永十八年八月廿八日 山田玄威久興契狀
 三七三 応永十八年八月廿八日 島津玄喜久豐契狀
 三七四 応永十八年閏十月二日 山田玄威久興契狀
 三七五 応永十八年 閏十月十一日 島津久豊契狀
 三七六 応永十八年 十一月十八日 島津久豊宛行狀
 三七七 応永十八年 十一月十八日 島津久豊安堵狀
 三七八 応永十九年 十一月廿五日 島津久豊契狀
 三七九 応永十九年十一月卅日 島津久豊契狀
 三八〇 応永廿五年十二月二日 平田重宗契狀
 三八一 十一月廿三日 島津久豊書狀
 三八二 十一月廿六日 島津久豊書狀
 三八三 応永卅年 二月 三日 山田玄威久興申狀
 三八四 応永三十二年 閏六月 九日 山田玄威久興申狀
 三八五 応永十年 二月 七日 山田久興讓狀
 三八六 応永廿二年八月廿二日 島津久豊加冠狀
 三八七 応永三十年六月 日 山田忠豊忠尚申狀

三八八 応永卅二年 閏六月十一日 泊久篤外二名段錢請取狀
 三八九 応永卅五年五月廿四日 山田忠豊忠尚申狀
 三九〇 応永卅五年五月廿五日 時任栄政外二名段錢請取狀
 三九一 永享四年 八月 吉日 肝付兼元契狀
 三九二 永享四年十二月廿四日 島津好久久用宛行狀
 三九三 永享六年 六月廿四日 平田姓宗重宗契狀
 三九四 永享六年 六月廿四日 野辺盛豊契狀
 三九五 永享六年 六月廿四日 石井忠義契狀
 三九六 永享六年 六月廿四日 肝付兼政・同兼直連署契狀
 三九七 永享六年 六月廿四日 興長武清契狀
 三九八 永享六年 六月廿四日 肝付兼元外二名連署契狀
 三九九 永享七年 六月廿三日 島津好久久用宛行狀
 四〇〇 永享八年 五月 廿日 島津忠国宛行狀
 四〇一 嘉吉二年 三月十八日 島津持久久用宛行狀
 山田氏一流 第五
 山田氏系圖 第五
 四〇二 六月 九日 島津忠国書狀

四〇三	某書狀	四二〇	十一月廿一日	限江匡久書狀
四〇四	『文明十七年』 閏三月廿二日	四二一	三月十一日	限江匡久・中野歲信連 署狀
四〇五	三月二日	四二二	四月廿八日	限江匡久書狀
四〇六	七月十九日	四二三	五月四日	限江匡久書狀
四〇七	十月十三日	四二四	五月廿三日	限江匡久書狀
四〇八	延徳二年 九月十八日	四二五	六月十一日	限江匡久書狀
四〇九	延徳三年 正月廿一日	四二六	七月十日	限江匡久書狀
四一〇	永正十三年三月十三日	四二七	七月卅日	限江匡久書狀
四一一	永正十三年三月十六日	四二八	八月廿八日	限江匡久書狀
四一二	永正十三年六月一日	四二九	九月七日	限江匡久書狀
四一三	二月廿三日	四三〇	『天文四年敷』七月廿六日	日置久參書狀
四一四	五月十六日	四三一	天文三年 三月 日	南樵雪名字書出
四一五	六月十三日	四三二	『天正年間』三月一日	村田經定書狀
四一六	六月十七日	四三三	上井仲五兼 政條書	
四一七	六月廿八日			
四一八	七月十日			
四一九	七月廿一日			

山田支流系圖「百引之王山田休左衛門」

山田氏支流系圖（式部少輔久親二男駿河系図）

不知所自出山田忠廣一流系圖

不知所自出山田忠廣一流系圖

不知所自出山田加賀入道系圖

山田氏庶流武通氏系圖

阿蘇谷氏一流

阿蘇谷系圖羽月之土彥右衛門尉久光

町田氏一流 第一

町田氏系圖

四三四 天正廿年 五月 四日 島津義久袖判覚書

四三五 天正二十年五月 四日 島津龍伯義久誓書下

四三六 『文祿二年』 二月廿八日 島津童伯義久誓詞

四三七 九月 四日 島津龍伯義久条書

四三八 八月 六日 島津龍伯義久書狀

四三九 七月 十日 島津童伯義久書狀

四四〇 五月十八日 島津童伯義久書狀

四四一 五月廿一日 島津龍伯義久書狀

町田氏庶流
町田源左衛門久政一流系圖

町田氏一流 第二

町田氏庶流

町田土佐守則久一流系圖

町田氏庶流

町田讚岐守久家一流系圖

町田氏庶流

町田隼人久康一流系圖

町田氏庶流

町田土佐守忠好一流系圖

町田氏庶流

町田周防守胤久一流系圖

町田氏庶流

町田三郎五郎忠光一流系圖

町田氏庶流

町田因幡守忠成一系圖

町田氏庶流

町田新左衛門久滿一流系圖

町田氏庶流

町田周防守忠房一流系圖

町田氏庶流

町田助三郎一流系圖

(七郎左衛門尉光宗系圖)

(飯牟礼光宗系圖)

不知所自出
町田治右衛門一流系圖

不知所自出

町田八郎左衛門忠宗一流系圖

町田氏庶流

町田助左衛門忠長一流系圖

阿多氏一流

阿多氏系圖

四四二 永徳四年 七月 十日 島津孝久久宛宛行狀

四四三 至徳二年 六月 一日 島津久光讓狀

四四四 応永七年 三月十七日 島津元久安堵狀

四四五 応永十八年八月廿二日 了玄宛行狀

四四六 応永廿四年二月 六日 島津忠国宛行狀

四四七 永享四年 四月 廿日 島津忠国宛行狀

四四八 永享四年 六月 卅日 島津忠国宛行狀

四四九 永享四年十一月 三日 島津忠国宛行狀

四五〇 永享四年十二月 七日 島津好久久宛宛行狀

四五一 永享四年十二月 七日 島津好久久契契狀

四五二 永享九年 五月廿八日 島津忠国宛行狀

四五三 八月 五日 渋川道鎮満頼書狀

四五四 十月廿三日 渋川義俊書狀

四五五 十月廿三日 渋川道鎮満頼書狀

四五六 二月十七日 渋川義俊書狀

四五七 二月廿三日 宗壽書狀

四五八 三月廿二日 渋川義俊書狀

四五六 四月 七日 阿多家久忠清書狀

(飛驒守久清二男久清系図)

(長門守系図)

阿多掃部助忠明一流系圖

不知所出阿多若狹守久鎮一流系圖

不知所出阿多美作守忠豊一流系圖

和泉氏一流

和泉氏系圖

四六〇 元徳二年 十月廿五日 鎮西下知狀

四六一 元徳三年 七月 九日 鎮西御教書

四六二 建武三年 三月十七日 足利尊氏奉行人連署奉書

四六三 建武三年 三月十七日 足利尊氏奉行人連署奉書

和泉氏系圖垂水之主小兵衛尉

佐多氏一流 第一

四六四 文和二年 五月十一日 足利尊氏下文

四六五 文和二年 五月廿二日 沙弥某施行状

四六六 応永四年 九月 廿日 渋川滿頼安堵状

四六七 長祿四年十一月廿八日 佐多忠成山置文

四六八 三月 五日 近衛種家書状

四六九 二月 二日 島津義久書状

四七〇 正月廿八日 島津光久書状

佐多氏一流 第二

佐多氏庶流 佐多若狹一流系圖

佐多氏庶流 佐多左近大夫元忠一流系圖

佐多氏庶流 伊佐敷三郎忠豐一流系圖

佐多氏庶流 伊佐敷伊佐敷氏庶流 伊佐敷紀伊介久充一流系圖

佐多氏庶流 佐多左京亮師義一流系圖

佐多氏庶流 佐多備中忠顯一流系圖

佐多氏庶流 佐多木工右衛門久豐一流系圖

佐多氏庶流 佐多左馬助通一流系圖

佐多氏庶流 佐多兵部少輔忠眞一流系圖

佐多氏庶流 佐多休兵衛久景一流系圖

佐多氏庶流 佐多式部少輔久治一流系圖

佐多氏庶流 佐多少左衛門久吉一流系圖

佐多氏庶流 佐多民部少輔久宗一流系圖

佐多氏庶流 佐多民部左衛門久英一流系圖

佐多氏庶流 佐多金兵衛久侶一流系圖

佐多氏庶流 佐多三郎左衛門忠昌一流系圖

佐多氏庶流 佐多左右兵衛久宗一流系圖

佐多氏庶流 佐多長左衛門忠成一系系圖

佐多氏庶流 佐多兵右衛門久金一流系圖

佐多氏庶流 佐多下野守徳中一流系圖

佐多氏庶流 佐多宮内少輔久友一流系圖

鹿兒島県史料編さん関係者

	調査課長	副館長	館長					委員		顧問
松山田大島塩井晋原五田桃										国立国会図書館 前早稲田大学教授 東京大学 史料編纂所所長
木下島平中田										客員調査員
智久み義										
子代る行彬										
齊伊浜徳										
藤集院平永										
聖祐公和										
子子子喜										

鹿兒島県史料

旧記雑録拾遺諸氏系譜2

平成元年12月1日印刷

平成2年1月21日発行

非売品

編集 鹿兒島県歴史資料センター黎明館

発行 鹿 兒 島 県

印刷所

凸版印刷株式会社
東京都千代田区神田和泉町1